

げんごつ団

『ボリジヨイ・ライイフ』

2015年11月4日～8日 駅前劇場

一十口裏

中央舞台、下手奥小舞台、上手前小舞台、の、三つの舞台。中央舞台後ろに、映写スクリーン。全体の彩りは赤。ソビエト連邦を思わせるデザイン。舞台全体の壁のあちこちには、大中小の、指導者の肖像画が飾られている。

中央舞台の下手には、頑丈ながらも朽ちかけ壊れかけた、木製の大きなテーブルと椅子二脚。中央舞台の上手にも、同じ椅子が二脚、無造作に置かれている。

中央舞台の上手側には、客席から見て縦に衝立があり、そこは下に降りる階段となっている。下手奥舞台の下手側には、下手に向かって、上に登っていく階段がある。

そして下手奥舞台の後ろには、数字が映し出されている。

「14,998,230」

その更に奥のスペースには、海に見える大きな窓が、一つある。

また客席には、人が一人、入れるほどの、小さな檻が一つあり、中に明かりが灯っている。

※客入れ・客出し、及び、劇中に使用する音楽は全て、ソビエト連邦を思わせるものが、主にロシア、及び、世界各所を思わせるもの。或いは、民族音楽。

SCENE 『回結』

開演時刻になると厳かにファンファーレが鳴り、軍服を着た同志たちが客席に現れ、客席に拍手を促しながら、舞台上へ。その拍手に答えながら、将校が客席に現れ、舞台上へ。将校が客席に向き直ると、客電が灯ったまま、舞台上明転。将校が、客席に向かって語り出す。

将校 同胞諸君。君たちがここに集結した目的とはいったい、何であるか…
栄光ある未来のために、我々がすべきことはいったい、何であるか…

間。

将校 そう…！ それは、全ての携帯電話、スマホ、その電源を、切ることである…！

同志1 (拍手) そうだー！

同志2 (拍手) よく言ったー！

同志3 (スマホにバッテリーを描いた旗を高く振り回す)

将校 …さあ、今こそ自らのスマホを、鞆から、ポケットから、出し、掲げよ

同志1 (客に) さあ出せ

同志2 (客に) 出すんだ

将校 隣人を見よ…！ スマホを出さぬ者はいないか…！

同志1 (客に) さあ

同志2 (客に) 早く出せ

将校 今こそ携帯電話を高く掲げよ…、そしてその指を、電源オフに、添えるのだ…！

同志1 (客に) さあ共に

同志2 (客に) 掲げるんだ

将校 両親、兄弟、友人、知人、仕事関係、交友関係、…その全てからの着信を絶つのだ

同志1 (客に) 掲げてください
同志2 (客に) そして指を電源ボタンに、そうです
将校 知人の急死! 勤め先の倒産! 両親の離婚! 妻・夫からの別れ話!
その全てをいざ絶て…!
同志1 (将校に) 準備完了です
同志2 (将校に) こちらも完了です

同志たち、将校より一步下がった場所に並び、
携帯電話を掲げ、電源に指を添える。

将校 …さあ、同志たちよ、準備はいいか。いくぞー三、二、一、オフ…!

将校の背後で、同志1、唐突にぶっ倒れる。

同志2 (自分の携帯電話を見て) やった…

将校 (客席に) さあ、これで全ての

同志3 (遮って) あ、あの

将校 (振り返る)

同志2 (同志1に駆け寄って行く) おい、どうしたんだよ、おい、おい…!

同志3、客席に何かを見つけ、客席に降りて一人の客に話しかける。

同志3 …立って。早く。スマホを

そうして客の一人を立たせ、そのスマホを、舞台上に向けて、構えさせる。

同志3 …オン(と言って、その客のスマホの、ボタンを押す)

同志1、勢いよく飛び起きて、先ほどのポーズと笑顔をとる。

同志3 …オフ(と言って、その客のスマホの、ボタンを押す)

同志1、再びぶっ倒れる。

将校 ……………?!

将校と同志2、3、驚愕し、その客を見つめる。

その客を見つめたまま、戦慄し、漏れ出す声を抑えきれない。

そして思わず悲鳴を上げ、逃げ出しそうになったところで、音楽が流れ出す。

FILM 『OPENING』

音楽に合わせ、客席の檻を照らす照明が楽しげに点滅しながら、映像へ。
檻に囚われた男の、檻を掴む、手。おはぎを握る、手。その繰り返し。

世界各地の祭り。踊る大勢が一人になり、波に飲まれて消えていく。

消えた一人が波から現れ、また大勢になって踊り続ける。その繰り返し。

そして、ソビエト連邦のニュース番組風の、ニュースキャスター。

キャスター ニュースです。

先ほどより遂に、我が放送局の視聴率が、完全なるゼロパーセントを記録しました。

原稿を置いてカメラ目線になる。

キャスター よって、この放送は、誰も見ていません。

世界各地の貧困街。

SCENE 『海辺 1 浦安 夢と現実』

オープニング映像の音楽が小さく続くなか、
上手前小舞台に、男女が腕を組んでやって来る。

ホーンデッドマンション、超怖かったあ

あ。ちよつ。あたってるあたってる…

えっ…。やだもう。エッチ(と、自分の胸を抑える)

いや、そういうんじゃない、なくてさ

そういうんじゃない、くないんじゃない？

ちがうって

ち、が、く、な、い

もー。マジで襲っちゃうぞー

キャー！ あ。ミッ●ーだ

ミッ●ー、後ろから二人を、じっと見ている。

ミッ●ーだ、ミッ●ー！ (男に) ねえねえ、写真撮って

もー、子供だなー

ミッ●ー！ キャーかわいいー！

男は、スマホを弄りだし、

女、ミッ●ーに抱きつく。

しかしミッ●ーは微動だにしない。

女、抱きついた身体や腕に、何かを感じて、凍りつく。

凍りついたまま、音楽オフ。

え……

あれ？ダメだ、カメラになんねえ…。これ昨日変えたばっかなんだよ、

どうすんだっけかな……

間。

……………ミチヒロ？

え？ (その様子を見て) …え？ …え？ なに？

男女とミッ●ー、見つめ合う、間。

ミッ●ー ………………ハハッ！

悲鳴をあげて、逃げだす女。

女 違うの！ごめんなさい！許して！
男 え？！なに、なに？ ちょっと待って！

逃げ去る女を、追って行く男。
ミツ●ーは、ミツ●ーらしいポーズを一つとった後、
隠し持っていた刃物を振り上げ、二人を追って去る。

SCENE 『海辺 2 ロシア 群舞』

波の音。ロシアの、酷い田舎の孤島にある、あばら家。
中央舞台に、パーヴェルが、グチャグチャの靴を持ってやって来る。
そして下手のテーブルにつき、靴をその辺に放り投げ、ウオッカを飲む。
そこにターニヤもまた、グチャグチャの靴を持ってやって来る。

ターニヤ マーシヤ、マーシヤ。…あ。やだ、パーヴェル。また裸足で…
パーヴェル いいじゃないか。だってどうにもならないんだぞ？
ターニヤ でも…

パーヴェル 靴底もガタガタだし、革もグニャグニャで足首のところもヨレヨレだ。

ターニヤ 履くだけで途端に、姿勢はおかしくなるわ重心は取れないわ、
関節が外れるわ歯が痛くなるわで、もう、どうにもならん
そんな…

パーヴェル …なんだ。お前だって裸足じゃないか

ターニヤ ああ、滑るのよ、靴底が

パーヴェル みつともねえな

ターニヤ 今だけだよ

ターニヤ、足を隠して椅子に座り、舞台奥の、海の見える窓を見る。
波の音が聞こえてくる。

ターニヤ ……。(ため息をひとつ、漏らす)

波の押し寄せる音と共に、舞台前方に光が差し込み、
上手前から頭にヤドカリの力キワリを被った男、
颯爽とやって来てポーズをとる。
そして波の引く音と共に、
ムーンウォークで上手前へ戻っていく。

ターニヤ (窓の外を眺めたまま) ……来ないねえ
パーヴェル 来ないよ。もう何年来てないと思ってんだ
ターニヤ どうなっちゃってんだらう。

このまま配給がなきゃ、マーシヤはどうなっちゃうんだらう…

パーヴェル あ？

ターニヤ マーシヤ。私らだってもう歳だる？ 薬も何もないし、いずれ死ぬだる？

そしたら…

パーヴェル いや来るだる

ターニヤ え？

パーヴェル そうなる前には、来るだろうよ
ターニヤ …ヤドカリが？
パーヴェル 船だよ。配給の船とか、救助の船とか
ターニヤ ああでもあんた、さつき来ないって
パーヴェル そりゃ、今日明日は来ないだろうけど、いつかは来るだろ
ターニヤ ほんとにもう。…：… いったいどうなっちゃってんだろうねえ（窓の外を再び見る）
パーヴェル （酒を一気に飲む）
ターニヤ （立ち上がり）さ。マーシヤ。…どこに居んだい、おいでマーシヤ！

照明が暗く青くなり、「四羽の白鳥の踊り」を美しく踊りながら、
四人のマーシヤが、やって来る。四人は、「四羽の白鳥」の衣装。
中央まで来たら、踊り終わり、音楽カットオフ。

ターニヤ マーシヤ、パッセもほどほどになさい

マーシヤ達 （顔を上げ、ターニヤを見る）

ターニヤ そんなことより、干し肉持っといで

マーシヤ2 え、パドブレ？（パドブレをする）

ターニヤ 干し肉

マーシヤ3 ああ、ルルベ（ルルベをする）

ターニヤ 干し肉

マーシヤ1 ああ、（聞き取れた）母さん、干し肉ならもうなかったわ（と、軽やかに踊りながら）

すっかり鼠が食べちゃったみたい（と、美しいポーズをとる）

え？また？

ターニヤ え？ピケ？（美しくピケをする）

マーシヤ4 パーヴェル、どうすんのさ

ターニヤ 干すからだ

パーヴェル え？

ターニヤ 干すからいけないんだろ

ターニヤ え？

マーシヤ1 でも父さん

マーシヤ2 （父母の周りでステップを踏みつつ）肉は干さなきゃ食べられないわ

マーシヤ3 （父母の周りでステップを踏みつつ）でも干したら鼠に食べられちゃうわ

マーシヤ4 （父母の周りでステップを踏みつつ）それに干したら随分小さくなっちゃうわ

マーシヤ1 （父母の周りでステップを踏みつつ）でも、干さないわけには

パーヴェル マーシヤ、群舞もいがかげんにしろ

ターニヤ …：で？ どうすんのさ、すっかりって食べられたって、全部かい？

…え？ フェット、デュミ、アン・ドゥ・トロフ？（美しく踊る）

パーヴェル （立ち上がり）どうせ鼠の肉だ。次に捕まえる鼠がその分大きくなってるともんだ

でもどうすんのさ、食べるものがもう何もないよ

（靴を履き始める）ああ、ちょっと見てくるよ

ああ、どうなっちゃうんだろう（マーシヤに）あんた、いったいこの先、

どうなっちゃうんだろう…

ターニヤ え？アッサンブレから、アンレール…？（美しくアッサンブレからアンレールする）

ターニヤ あんたの将来だよ！

パーヴェル、靴を履き終わると途端に姿勢は崩れ、足下はぐにやぐにやになる。
一歩一歩、重心を崩しながら、上手に向かって歩き出すが、まったく進まない。

ターニヤ もう、母さん心配で…

マーシヤ1 ああ、私なら大丈夫
マーシヤ2 いつまでもこんな群舞じゃないわ
マーシヤ3 この先、着実に頑張っ
マーシヤ4 私、プリマになるの
マーシヤ1 ね？だから安心して
またそんなこと言っ
（パーヴェルを見ぬまま、遠くに向けて言う）パーヴェル！どう？
（まだすぐ隣に居る）もうちょっと待て…
でも母さん、こうして群舞にはなれたんだから…！
ええ、なれたわ
そうよ、なれたわ
だからいつかきつと…！
群舞になるとプリマになるとじゃワケが違うんだよ！
夢ばかり見るんじゃないよ、ほんとにもう、こんな状態でよくもそんな…
決めつけないで！

四人のマーシヤ、群舞のポーズになる。

ターニヤ ……え？

凄みのあるバレエ音楽が静かに流れ出し、四人で踊り始めるマーシヤ。
※以降、マーシヤ、全て美しく踊りながら。

マーシヤ4 母さんはいつもそう…、決めつけてばかり…
パーヴェル （振り返られぬまま）ん…？どうした、なにかあったか？

踊り続ける、間。

マーシヤ3 いいわ…、私、出るわ。この島を…！
ターニヤ え？
マーシヤ2 我慢できないの…！
ターニヤ 何を言ってるの！
マーシヤ1 もういくら待ったって、船なんて来ないのよ…！
海の向こうは、きつとなんか、どうにかなっっちゃってるのよ…！
（振り返られぬまま）おい、どうしたんだ…？

凄みのある踊りを終えると、
四人のマーシヤは再び四人で連なり、「四羽の白鳥の踊り」を始める。

ターニヤ でも、だって、どうやって島を出ようってのよ…！
マーシヤ4 丸太に捕まるなり泳ぐなり、どうにでもなるわ…！

「四羽の白鳥の踊り」で、進み始める4人。

ターニヤ （慌てて靴を履きながら）ちよっと待って…死ぬよ！パーヴェル、止めて…！
パーヴェル （マーシヤたちに追い抜かされ）…あっ、マーシヤ、どこへ行くんだ…
マーシヤ達 ……。 （踊り、進み続ける）
ターニヤ 待って、マーシヤ…！お願い…！

しかしターニヤもパーヴェル同様、靴を履いた途端に姿勢が崩れ、滑り始める。静かにジタバタする、パーヴェルとターニヤ。美しく「四羽の白鳥の踊り」で去っていく、マーシャたち。

四人が去ると、「ブーン…」と音がして下手の数字が揺れ、「カシヤ」と、減る。

「14,998,230」→「14,998,229」

ターニヤ (それを目撃する) ……えっ、やだなに……、パーヴェル。あの数字、なに…？
パーヴェル マーシャ……
ターニヤ 減ったのよ…！今、あの数字、1(イチ)減ったの、何が、1(イチ)減ったの…？
パーヴェル 知らないよ、マーシャ……！

SCENE 『海辺 3 南米 フラ』

「サントス！」と声がして、下手後ろの小舞台に、
看守長と、看守に連れられたサントスが、やって来る。
ターニヤとパーヴェルは、静かにバタバタとマーシャを追って、
なんとか去って行く。

看守長 サントス。十年間のプレ懲役、ご苦労だった…

サントス ありがとうございます…！

看守長 ……。(サントスに証明書を渡す)

サントス ……。(受け取る)

看守 (サントスの肩を叩き) …よく頑張ったな。これでお前は懲役十年分の罪を、

…すでに償った

看守長 …ああ。これからは、万引き、食い逃げ、強盗、強姦、過失致死に傷害致死など、懲役十年分の罪ならなんでも、犯し放題だ…！

サントス はい…！

看守 ほら…(拳銃をサントスに投げ渡す) 出所祝いだ

サントス 看守…！

サントス、感激のあまり思わず看守に抱きつくと、その拍子に暴発する銃。

サントス あっ、すみません！

看守長 (笑って) おっ、さっそくか

看守 (笑って) 羽振りがいいなあ

サントス …あ、じゃ、お世話になりました！(その場を走り去る)

看守 ああ、元気でな…！

サントスが下手階段に上がると、南国の鳥の音がする。
サントスは陽の光を眩しがり、外の空気を吸い、階段を駆け上がっていく。
看守は腹から血を流して倒れ、看守がそれを受け止める。

看守長 (幕内に) おい、救護班を…(看守、死ぬ) いや、神父を呼べ

爽やかに笑いながら、看守長、看守を抱えて去っていく。

SCENE 『海辺』 3 南米 マカンドレイブ」

中央舞台には、数字を眺めているフリオ。

フリオ

……。

「ブーン…」と音がして数字が揺れ、「カシャカシャ」と、数字が減る。

「149,98,229」 → 「149,98,227」

フリオ おお……

そこに上手から女、突然、フリオに走り寄って来て、悲鳴をあげる。

女 キヤアア！ セカンドレイブ！

……えっ？

イヤアアアア！（周囲に叫び回る）セカンド…！ セカンドレ…

（慌てて遮って）いや…、ちょっと、なに…？

…。（涙目で男を睨む）

……「セカンド」？

（睨んだまま）……サード

えっ

（睨み続ける）

あのっ、俺、別になにも……

（睨んだまま）……シヨート

は…？

（睨み続けたまま）…レフト

……。

（睨み続けたまま）センター

…野球？

（睨み続けたまま）ライト

…野球だね

キヤアア！ バッテリー！ バッテリーレイブ！ イヤー！

女、そのまま上手に逃げ去る。

女 （去り際に）プレイボール……

……？

上手階段下で別の悲鳴があがり、銃声が二、三発して、階段下から、拳銃を持ち、返り血を浴びたサントスが、札束袋を持ってやって来る。

サントス フリオ！

フリオ ？

サントス フリオ！

フリオ あ…、え…？ サントス？

サントス ああ…！（涙ぐみ）久しぶりだなあ…！

フリオ サントス…！

サントス、笑顔のまま、駆け寄って来たフリオに向かって、発砲。
フリオ、吹っ飛ぶ。

サントス 今日出所したんだよフリオ！（札束の入った袋を見て）これで俺もイッパシの大人だ、
ようやく母さんと弟たちを養えるよ（そして倒れたフリオのポケットを探りながら）
いやあ辛かったなあ、十年間……

髭を生やした屈強な男、マリオがその背後に近づいて来る。

サントス でも、お前もやるべきだよ、だってこうして……

マリオ フリオ……

サントス （振り返って）あ、マリオ

マリオ フリオ、フリオ……！（サントスを退けて、フリオに駆け寄る）

サントス ああ：マリオ、久しぶり……（と、涙ぐみ）元気だったか？（と、マリオに銃を向ける）

マリオ （瞬時にその銃口を手で捉え）……お前、弟を、殺ったのか……？

サントス （銃を向けたまま）俺さ、今日出所したんだよ、でさ

マリオ （銃口を手で捉えたまま）そんなことはどうでもいい！

サントス （銃を向けたまま）え？

マリオ （銃口を手で捉えたまま）お前が殺ったのかと聞いているんだ……

サントス ……え？（フリオを見て）ああ、まあ

マリオ （殺気立ち）この……！

マリオ、サントスを乱暴に蹴り倒し、殴るかと思わせるも、
勢いよくシャツのボタンを外し、サントスに向けて胸をはだける。

サントス ……え？

マリオ リベンジ・ポルノだ……

サントス ……え？

マリオ フリオの無念を、思い知れ……（自分の乳首を弄びながらサントスににじり寄る）

サントス ちよっと……

マリオ ……。 （サントスの頭を掴んで、自分の股間に押し付ける）

サントス あ、やめ（て）

マリオ あああああ……（むせび泣きながら、押し付け続ける）

サントス （なんとか逃れて）違うと思います。リベンジポルノってそういうんじゃないと……

マリオ あああああああ……（ズボンを降ろし始める）

サントス うわあああ……！（走って逃げる）

マリオ （フリオを担ぎ上げ）ああああ……！（と、追って去る）

そうしてサントスとマリオが去って、少しの間のあと、

「カキーン」と、ホームランの音と、歓声がする。

先ほどの女、三塁ベースを持って走り出てきて、

それを中央に投げ捨てると、その横に、立て膝で座る。

女

（真剣な表情で上手を見つめたまま、片手を大きく回して叫ぶ）
ゴー、ゴー、ゴー、ゴー……！

女が「ゴー、ゴー、ゴー、ゴー……！」と叫び続けるなかで、
髪と服が乱れ、パンツの下りた女が、一人、また一人と、
泣きながら歯を食いしばった必死の形相で、上手奥から走って来ては、

三塁ベースを踏んで、ホームベースのあるらしき、上手前に去っていく。

女 ゴー、ゴー、ゴー、ゴー！

FILM 『昆布』

女たちが去っていくと、ニュースが始まる。
舞台上には、沢山の洗濯物の入ったカゴを持ったラ・ニーニヤがやって来て、
下手のテーブルで洗濯物を整理しながら、なんとなくテレビを見る。

キャスター ニュースです。世界的に増加の一途を辿る女性への性暴力ですが、
これに対しまして、女性の全てを女性ではなく、「昆布」とする運動が、
世界各地で盛んになりつつあります。

手が止まる、ラ・ニーニヤ。

素敵な音楽と共に、美男美女の美女が昆布に、トイレの女マークが昆布マークに、
ゆっくりと変化していく映像。

ラ・ニーニヤ、思わず、映像に近寄っていく。

そこで唐突にブザー音がして、再びキャスターが映る。

キャスター えー、只今、臨時ニュースが入りました、臨時ニュースです

キャスター、原稿を受け取る。

キャスター えー只今、この放送を、一人の人が、見ているようです！

只今、この放送を、一人の人が、見ているようです！

キャスター、立ち上がる。

キャスター 今、受信元の現在地を……

そしてキャスター、こちらに向かって来そうな勢いを見せる。

ラ・ニーニヤ、小さく悲鳴をあげて、慌ててテレビを消す。

SCENE 『海辺』 3 南米 現象』

ラ・ニーニヤ ……なに今の

そこに、エル・ニーニョが泥酔して帰って来る。

南米の田舎の、海辺にあるあばら家。

エル・ニーニョ おい昆布、酒だ

ラ・ニーニヤ ……は？

エル・ニーニョ 酒だっつってるんだ、昆布

ラ・ニーニヤ 昆布じゃないよ……

エル・ニーニョ 昆布じゃない…？（と、目を細めてラニーニヤを見る）…出汗は？

ラ・ニーニヤ 取れないよ

エル・ニーニョ 取れない？

ラ・ニーニヤ 何も巻かないよ

エル・ニーニョ …はっ。役に立たねえ昆布だな……

エル・ニーニョ、かなりフラついた足取りで、下手のテーブルへ。

ラ・ニーニャ あんた、どうしてそんなに毎日……

…お。いいのがあるじゃねえか(床下に酒瓶を見つける)

…あつ。それはあの子の、あの子の出所祝いに…(エル・ニーニョに駆け寄る)

(ラ・ニーニャを蹴り飛ばし、その酒瓶を手に取る)

ラ・ニーニャ (倒れたまま) やめて…、それはあの子の……

ノックの音がして、警察官がやって来る。

警察官 失礼します、大丈夫ですか？

エル・ニーニョ ……なんだ。警官に用はねえよ

警察官 いや、こちらの青年、お宅の息子さんで？

警察官の後ろから、憔悴したサントスが現れる。

ラ・ニーニャ サントス……！

ラ・ニーニャ、思わず走り寄り、サントスに抱きつく。

警察官 なんだか気が違ったように通りを走っていたんでね、保護したんですよ

お宅の息子さんで間違いありませんね

ラ・ニーニャ ええそうです、サントス、サントス、あんたどうしたの……

サントス 母さん……！

抱き合うサントスとラ・ニーニャ。

それを見て、警察官は、ああよかった、と、メモ帳を取り出し、

エル・ニーニョに尋ねる。

警察官 じゃ、一応お名前、伺っておいてよろしいですか？

エル・ニーニョだ

警察官 エル・ニーニョさん(メモをとる)

エル・ニーニョ ああ、現象だ

警察官 現象(メモをとる)

ラ・ニーニャ ええ現象です。あ、私はラ・ニーニャ。現象です。

ほんとうに有難うございました

警察官 現象……？

ああ、エル・ニーニョ現象と、ラ・ニーニャ現象だ

あ、海流があったかくなるのと、つめたくなるのです

警察官 (サントスを見る)

サントス (笑顔で) あ、現象です

警察官 え……

サントス え？

警察官 (意味がわからないまま) ……いいのか？

サントス はい？

警察官 いや…、ご両親が、現象で…

フエーン 兄さん！

そこに少年、フェーンが、下手の階段から駆け降りて来て、サントスに向かって、賭け寄って来る。

フェーン (警官の横を横切る)

警察官 熱っ

サントス フェーン！(フェーンを抱きとめる) 熱っ

エル・ニーニョ (警官に) ああ、末の息子のフェーン。現象だ

ラ・ニーニャ 高い所から吹く、熱風です

警察官 はあ……

エル・ニーニョ さあもういいだろう、帰ってくれ

警察官 いやでも、現象って……

エル・ニーニョ うるせえ！とっとと帰れ、馬鹿野郎！(酒瓶を振り上げる)

ラ・ニーニャ あっあんた、それはサントスに……

エル・ニーニョ 黙れ！(ラ・ニーニャを殴る)

ラ・ニーニャ ……！(倒れる)

サントス ラ・ニーニャ……！(駆け寄る)

そこに青年、ドップラーが、上手から現れる。

ドップラー ……やれやれ、またやってるのか。毎日騒々しくて嫌になるよ

サントス ……！(その懐かしい声に振り返る)

ドップラー ……兄さん。

問。

ドップラー ……やっと帰ってきたな(笑って) 十年経っても、相変わらずだ……

サントス (サントスに近づくと声がどんどん高くなる) こんな家は、早く出た方がいい

ドップラー (サントスを越すと声がどんどん低くなる) ここに居たって、何の意味も……

サントス ……おいドップラー、そりやどういう意味だ

ラ・ニーニャ (警官に) 近づく時に音が高くなり遠ざかる時に音が低くなるドップラー現象です

ドップラー (サントスに近づくと声が高くなる) どういう意味も何もそのままさ。

サントス (サントスを通り過ぎると声低くなる) せっかくの自分の将来だ……

ドップラー (サントスに近づくと声が高くなる) 自分のために、生きた方がいいって事さ

サントス 俺は、ラ・ニーニャや、お前達のために……

ドップラー (近づき遠ざかりしつつ) 俺たちの事なんか、放っておけばいいのさ、

なんの得にもなりやしない。わかるだる……

ドップラー、そう言い終わると、警官を睨み、追い払う。

彼らに背を向け、酒をおおるように飲んでるエル・ニーニョに、

ラ・ニーニャがゆっくりと近づいていく。

ラ・ニーニャ ……ねえ、あんた、どうしてそんなに

エル・ニーニョ ……。

ラ・ニーニャ 少しはまともになっておくれよ、頼むよ、あんたのせいでサントスは十年も……

エル・ニーニョ 黙れ！俺のせいでサントスが何だって……？

エル・ニーニョ、酒瓶を思い切り床に叩きつける。

割れて飛び散る酒瓶。

エル・ニーニョ
そんなことはどうでもいい…、ああ、いや、そうだ…
(笑って) 俺のせいだ…、俺のせいなんだよ…!!

エル・ニーニョを見つめる一家。

エル・ニーニョ 俺のせいだ、日本は、冷夏に、なるんだよ…。(絶望)

間。

ラ・ニーニャ あ…。…それを言ったら、あたしだって…、日本を、猛暑に…。(絶望)

そこに紳士のヒート・アイランド、やって来る。

ヒート
ドップラ
フェーン
ドップラ
ラ・ニーニャ…
おっと。フェーン、こっちに來い
(ヒートを見ながらドップラーの方に走る)
(サントスに) まあせいぜい、よく考えるんだな (フェーンを連れて立ち去る)

去り際にヒートはこっそりフェーンに手を振り、
フェーンも小さく振り返す。

サントス …なんだ、お前
ヒート …ヒート・アイランドだ
現象か
ああ、現象だ (エル・ニーニョに向き直り) おい、また暴力を振るったのか
いいのよ、いつものことなんだから
いや、もう我慢ならない。ラ・ニーニャ、一緒に行こう
ああ、二人でどこにでも行っちゃまえ…!
そうさせてもらうよ
え? ラニーニャ…?
あ、違うんだよサントス、あたしは、ただちょっと、耐えられなくて…でも…
ああ、全部俺が、悪いんだよ…
ああ、でもヒートアイランド熱っ (ヒートもやはり近づくと熱い)
あたしとあんたがもし一緒にいたら熱っ、日本の猛暑はどうなるのさ熱っ、
もつともつと凄事になるんじゃないかい熱っ、太平洋の海流も荒れるだろ、
だから熱っ、
でも…!! (ラ・ニーニャを引き寄せる)
熱っ!!

波の音。海鳥の異様な鳴き声。

サントス (その音に気を取られ) え…
エル・ニーニョ (その際に、サントスのズボンから銃を抜き、自分のこめかみに当てる)
サントス あっ…!
エル・ニーニョ ……さあ早く行け
ヒート フェーン! フェーン!

フェーン駆け寄って来て、エル・ニーニョを見て驚き、
ヒート・アイランドにしがみつく。

ヒート・アイランド、フェーンの目を塞ぐ。
三人で抱き合い、熱を感じる、ラ・ニーニャとヒートとフェーン。
熱風の吹き荒れる音、遠雷の音。

ラ・ニーニャ　ああ海が……
ヒート　それでも行くんだ、一緒に……
エル・ニーニョ　早く出ていけ
ヒート　さあ……！（ラ・ニーニャとフェーンの手を引く）
でも、異常気象に……！　異常気象が……！

ヒート、二人の手を引いて、無理やり部屋を出ていく。
三人が去ると、風の音、遠雷の音は、ゆっくり静まっていく。
間。

サントス　…エルニーニョ、さあ、銃を返して
エル・ニーニョ　……………。
サントス　頼むから……！
エル・ニーニョ　サントス。俺たちの事は、もう構うな。俺たちは、単なる現象だ……
サントス　でも……、エル・ニーニョ……
エル・ニーニョ　全部、単なる、現象なんだ……！

自分の頭を撃ち抜く、エル・ニーニョ。
頭が砕け、血が吹き出し、倒れる。

サントス　……………。ああ……、ああああああ……！

大きな波の音。
サントスが振り返ると、津波が押し寄せている。

サントス　波が……！

大波の音。押し寄せる津波。
と、共に、下手奥から、
ヤドカリとハマグリとカニのカキワリを被った男たちが、
波に乗ってやって来て、
逃げようとするサントスを、途端にさらっていく。

SCENE 『海辺』 4 中国 売物

海は静まり、のどかな牛の声。中国の田舎のあばら家。
頭のない男、チーリヤオ、スキップしながらやって来る。
しばらくして、その兄、ピンチュンがやって来る。

ピンチュン　お。チーリヤオ。頭、どうした
チーリヤオ　…。（ジェスチャー）
ピンチュン　え？　なに？
チーリヤオ　…。（ジェスチャー）
ピンチュン　なんだかわかんねえ。ちっともわかんねえ
チーリヤオ　…。（怒ってジェスチャー）

ピンチュン
チーリヤオ
チェンチュー

わかんねえよー(チーリヤオをくすぐって笑う)
…。(声無く笑う)
兄さん、うるさい!

妹のチェンチュー、人間の手首から先を持って、やって来る。

ピンチュン
ユエリヤン

(その手に向かって言う)あ、母さん、ただいま
(その手をあやつり、腹話術で、ピンチュンに言う)
「おかえりピンチュン。腹減ってないかい?」
減ってる減ってるー

ピンチュン
チェンチュー

(その手に向かって言う)

ピンチュン

いいんだよ、こんな役立たずにご飯なんか食べさせなくて
うるせえチェンチュー

チェンチュー

(その手をあやつり、腹話術でピンチュンに言う)

「待ってね、今なにか」

(その手を自分に向けて言う)

だからいいだって、そうやって母さんが甘やかすから

なんだよてめえ、やんのか(と、チェンチューの髪を掴む)

あつ、ちょっと、やめてよ! 触らないで!

ピンチュン
チェンチュー

そうして揉み合ってる居ると、

幕内から、足首の先だけが、ピンチュン目掛けて飛んでくる。

ピンチュン

痛っ(その足を拾って、足に向かって言う)…なんだよ、父さん

(その足をあやつり、腹話術で言う)「ピンチュン、やめないか!」

(その足に向かって言う)うるせえ!

ピンチュン、その足と殴り合い?の喧嘩を始める(腹話術を交えつつ)。

喧嘩の末、最後にそれを幕内に放り投げる(腹話術を交えて)。

ついでに手も奪い床に叩き付ける(腹話術を交えて)。

チェンチュー

ちよっと! あんた、父さんや母さんに何すんのよ!

(素早く手を拾って腹話術で言う)「いいのよ…、チェンチュー……」

(すぐさま手を放り捨てて)母さんは黙ってて!(腹話術で言う)「痛い!」

少し間。

チェンチュー
ピンチュン
チェンチュー

…ねえ。あんた、誰のお陰でここまで育ったと思ってるの?
…。

みんな、せつせと身体売って、生活支えてんのに…(と、自分の身体を抱き)

兄さんは、いい歳してそんな……

……っせーな

ねえ、まともになつてよ、お願いだから……

……。

ね

……わかったよ

え……?

わかったよ(と、上手階段に向かって歩き出す)

え?(それを追って)…ね、ね、どこ売なの?

ピンチュン めんどくせえから、全部かな…
チェンチュー ヤった…! じゃ、ご馳走用意して、待ってるからね!

ピンチュンが上手階段を降りて去って行くと、
「ブー……ン」と音がして、数字が揺れ出す。

チェンチュー ……ん?

振り返って、揺れる数字を見る、チェンチュー。
すると「カシャカシャカシャカシャカシャカシャカシャカシャ」と、
数字が一気に、減り始める。

チェンチュー えっ……

そして「チーン!」と数字が止まる。

「149,98,227」↓「149,97,000」

チェンチュー (思わずヒツと声を上げて) やだなに…ちょっと…え…なにが減ったの?
父さん、あれなに? 何が減ったの?

思わずチーリヤオを連れて、逃げて行くチェンチュー。
少しの間の後、ピンチュンは、下手階段を降りてくる。
その後ろに、ビジネス鞆を持った中年日本人サラリーマンも降りてくる。

ピンチュン ……ん? 何? 誰?

キヨシ ……あ、キヨシです。いやすいません、

ピンチュン ……別にあの、どこにでも居る、平凡な男なんで
……あ、そ

二人、奥に去って行く。

FILM 『革命』

二人が去ると同時に、荘厳な音楽が流れ、ナレーションが始まる。

「世界中に蔓延する深刻な格差社会、貧困・飢饉・差別・暴力…
そのあらゆる問題に対し、世界各地で『運動家』たちが、立ち上がった。」

世界各地の、あらゆるデモ活動。

「その『運動』は、大勢の市民を団結させ熱狂させ、みるみるうちに拡大。」

繰り返し踏み鳴らされる、大勢の足。繰り返し振り上げられる、大勢の拳。

「そしてその『運動』は、国境を越え、民族を越え……」

繰り返し踏み鳴らされる、大勢の足。繰り返し振り上げられる、大勢の拳。

「やがて世界を席捲する、「有酸素運動」に発展！」

テンポアップし、軽快に踏み鳴らされる、大勢の足。振り上げられる、大勢の拳。

「これにより世界中のカロリーはみるみるうちに消費され、我々は遂に、理想のボディを手に入れたのだ……！」

さらびやかに、美しい男女モデルたちの水着画像。

「この「スリム革命」の頂点に立ち、人類の待ち望んだ世界統一を果たした偉大なる指導者は、エアロビクスチャンピオン、サン・ジョリン！」

劇場内のあちこちに飾られている、肖像画の人物。

「彼は巨大化し收拾のつかなくなっていた運動を、軽快なリズムとステップで見事、一つにまとめあげたのだ。」

華麗なエアロビクスを披露する、サン・ジョリン。

「彼こそ史上最高のパーフェクトボディ。」

彼は今も、この世界の指導者として、我々のために身を粉にし、全身全霊を注いで、日夜、健康的なダイエットに励んでいる……！」

赤字で「S」と記された白い手袋をはめた軍人が、カメラに向かって言う。

「スリムアップ政府軍、及び、治安部隊へ志願する諸君には、今ならもれなく、スリムアップ手袋を進呈しよう！」

装着するだけで手のツボを刺激し、みるみる太りにくい身体に！
またこの手袋で身体をマッサージすれば、気になる部分もたちまち、シェイプアップ！」

街のあちこちに貼られたプロパガンダポスター。

『脂肪はアヘン』 『隣人の脂肪を燃やせ』
『冷えとむくみは最大の敵』 『おやつか死か』

街の夫婦 夫「健康的なシェイプアップに反対？ そんな奴がいるのか？」

妻「いやだキチガイよ。しらみつぶしに探し出して、始末して欲しいわ」

そしてボディビルの男女の映像の上に、『世界連邦政府』のテロップ。

「ご安心ください。我々は今日も、加圧トレーニングに励んでいます
我々政府高官の平均体脂肪は、この半年、12%をキープ。これは前年に比べて……」

SCENE 『海辺』 5 フィン 配給

テレビを消すアハド。

アラブの海辺の、裕福な家。

アミルが段ボールを持って入ってくる。

アミル

やっと配給がきた……

アハド またスリムアップ食品か…
アミル ああ。高濃度茶カテキンも大豆ペプチドも、もう沢山だ…！
アハド ハリルは
アミル ああ、強制エステに連れていかれた。奴らは、全身脱毛も辞さないだろう…
アハド なんてことだ…、我々の反政府活動は、この先いつたい…

そこにハーシム、乱れた衣服で、息絶え絶えにやってくる。

ハーシム アハド…アミル…(倒れる)

アミル ハーシム！ハーシム、どうした

アハド (ハーシムの上半身を助け起こし)…くびれている

アミル まさか脂肪吸引…

アハド ああ、それに、小顔マッサージもだ…

アミル 本当だ、顎のラインが、こころなしか…

少し間。

アハド …政府の横暴にはもう我慢がならない。…アミル、おやつだ

アミル え…

アハド もう構うものか。アースラ、おやつだ！ たんまりとおやつを持って来い！

アミル やめる、消されるぞ、全てのセルライトを

アハド やれるものならやるがいいさ。アースラ！早くしろ

アミル、ハーシムを抱えて、上手奥へと、一旦その場を去る。

アースラが、上手前から、慌ててやって来る。

アースラ あなた、何をしているの…！ もっと大声を出して

アハド わかった。あー

アースラ (アハドに駆け寄りながら) あなた、そんなに大声を出しても、

私には何も聞こえないわ

アハド そうか、ではもう一度言おう(窓の外に向かって)おーやーつーを…

アミル、慌てて戻って来る。

アミル アハド！なにをそんなに大声を出しているんだ

アハド アースラに聞こえるようにだ

アミル え、アースラ、聞こえないのかい？

アースラ ねえ、どうかアハドを止めないで。アハドはスタスタに殺されればいいの

アハド (心底驚いて) えっ…？

アースラ (アミルに) 兄さんはアハドのことを、本当の兄弟のように、

心の底から憎んでいるわね、だから…

アハド (心底驚いて) そうなのか…？(アミルを睨んで腰の剣を抜こうとする)

アミル いや、アースラ、嘘ばかりつくのはよせ

アハド (心底驚いて) 嘘なのか！

アースラ いいえ！私、嘘なんて一度もついたことないわ…

アハド (うんうん、と、うなづく)

アースラ、目眩いを起こす。

アミル …いやアハド、妹はおかしい。こないだから嘘しか言わない
アースラ (力無く) じゃ、私、洗濯物を汚してくるわね…(去ろうとする)
アハド ああ頼むよ
アミル なんて汚すんだ、洗濯物を
アハド なんて汚すためだろう？
アミル アハド、わからないか？ 妹は病気だ。病的な虚言癖を患っているんだ
アハド 馬鹿な。私の妻が病的な虚言癖で、死ぬほど苦しんでいるとも言いたいのか
アースラ ええ、私、病的な虚言癖でもないし…、死ぬほど苦しんでも、いないわ……
アハド なあ(と、言って、屈託無く笑う)
アミル ……………。
婆さん(声) 「おやつ」と聞こえたが?!

齒の欠けた汚い爺さんと婆さんと子供、
そして彼らと共に、マーシヤの一人、マーシヤ4が、やって来る。
その後ろについてののように、キヨシも居る。

アミル 誰だ？
アハド おお、マーシヤ。具合はどうだい？
アミル 誰なんだ…(爺さんと婆さんと子供がとても臭い)
アースラ ええ、昨日の嵐のあと、買い物帰りに海岸を歩いていたら、
アハド ずぶ濡れで大きな丸太につかまったら、浜辺に倒れていなかったの
アハド ああ、浜辺に倒れていなかった娘だ。可哀想に身寄りがないようなので、
一時的に保護したが……
アミル 娘…?(娘を探して) ああ、君が「マーシヤ」か。で、これは…
マーシヤ4 ああ(汚い爺さん婆さんと子供を見て) この人たちも、マーシヤよ
アミル え？
婆さん さあおやつはどこなんだい、このインポ野郎
アハド ああ、マーシヤは一人じゃないと言ってね、その辺に居たのを連れてきたんだよ。
アミル だから皆、マーシヤだ
え？
マーシヤ4 ええ、マーシヤは群舞だから、四人居るのよ
アミル (キヨシに気づき)…で、これは？
アハド あ、なんだ？お前は誰だ？
キヨシ あ、別にその、どこにでも居る、ごく平凡な、男なんで。気にしないでください

そう言つとキヨシ、どこか目立たない椅子に座り、以降、ずっと居る。
居るだけ。

爺さん さあ、俺は身寄りの無い可哀想なマーシヤだよ、早くおやつを寄越しな
アハド (頭を優しく撫でながら爺さんに) マーシヤ、ごめんよ。君におやつは駄目なんだ
爺さん じゃあ何か金目のものを出しな、このチンカス野郎が
アハド はっはっは、アミル、何か金目のものを出してやれ
アミル 兄さん！そいつらはただの汚い浮浪者で、「マーシヤ」ではないんじゃないか？
アハド え？(爺さんに尋ねる) そうなのか…？
マーシヤ4 いいえ、マーシヤはマーシヤよ！
アースラ (マーシヤを爺さんたちから引き離し) ああ、とっても可愛くないマーシヤ…、
具合はもういいの？ 早く死んでね
アミル アースラ…
マーシヤ4 え、私、まだ死にたくない！ だって…

マーシャ、アースラの手を振りほどこぎ、爺さんと婆さんの背後に隠れる。

マーシャ4 だって私、いつかきつと、とんでもない大金持ちになるの！

婆さん ああ、そりゃあもう、えげつないほどの金持ちになりたいねえ（身震い）

爺さん 酒も女もウハウハにな（とても下品な動作）

マーシャ4 そう、ウハウハに！（とても下品な動作）

マーシャと爺さんと婆さんと子供、とても下品な動作で、盛り上がる。

思わずそこからマーシャを引き剥がす、アミル。

アミル マーシャやめなさい！（婆さんに）お前はマーシャじゃないだろ（と、婆さんを殴る）

アハド おい、マーシャになにをするんだ（アミルを殴る）

アミル ……兄さん、どうしてそんなに何でも信じてしまうんだ

アハド え？

アミル いいかマーシャ。こいつらはユスリ、タカリ、詐欺に売春、なんでもするゴロツキだぞ

マーシャ4 ええ、マーシャはユスリ、タカリ、詐欺に売春、なんでもするゴロツキだわ

だからお金を寄越しやがれ、この包茎野郎（手を出す）

アミル （その手をはいて）マーシャ。いいか？ マーシャは、君だろ？

マーシャ4 （爺婆を見て）だってマーシャがお金持ちになりたいって…だから…

アミル （マーシャの目を見つめ）マーシャ。マーシャは君だろ？ 自分自身の夢は？ ん？

マーシャ4 やめて！ なんなの？（と、アミルを爺婆らの方に突き飛ばす）…あ、なにあれ？

爺さんと婆さんと子供、突き飛ばされてきたアミルを囲んで、殴る蹴るする。

マーシャは、置いてある配給の箱に、駆け寄る。

アハド ああ、それは、あの愚かな政府からの、配給品だ

マーシャ4 配給？これが…！

爺さんと婆さんと子供、アミルを殴るのをぴたりとやめて、話を聞く。

アースラ ああ、それは、最高に慈悲深く素晴らしい政府が、私達のために送ってくれた贈り物よ

アハド えっ、そうなのか？

マーシャ4 わああ…（と、箱を手取るが）

爺さん、マーシャが手に取った配給の箱を素早く横取り。

マーシャ4 あっ

そして、爺さんと婆さんと子供、一斉にずらかる。

マーシャ4 あっ…、待って、マーシャ…！

婆さん 退け小娘、もう用はないよ！（と、マーシャを突き飛ばして去る）

マーシャ4 （よろけながら）え…、なんで…？ 待ってマーシャ、私も…

アースラ マーシャ！（マーシャを引き止め、抱き寄せる）

アハド なんてことだ…、最高に慈悲深く、最高に素晴らしい政府からの贈り物を…

腰の剣を抜いて、爺さんたちを追おつとするアハドの背後で、倒れていたアミル、ゆっくりと起き上がり、アハドに近づく。

アースラ (アミルの様子に気づき) はっ…、アハド！リラックス！
アハド …… (リラックスする)

アミル (アハドを思いきり殴る)
アハド なにをするんだ！

アミル ……今、なんて言った。政府が、なんだって？
アハド え…？ ……。(アースラに) ……素晴らしいんだろっ？

アースラ (こっそりとアハドに耳打ちする) ……ええ、史上最高の政府。
その政策の全ては、私達の事を心から、思っているものよ……

アハド (うなずいてアミルに) ああ、非常に優秀な、忠誠を誓うべき政府だ
アミル そうか…。まさかお前が、政府のスパイだったとはな……

アハド (そう言つと、拳銃を取り出し、アハドに向ける)
…！

アースラ (悲鳴)
アハド アミル…なにを…

アースラ アハド…！アハド、挑発よ、挑発して…！
アハド ああわかった！(アミルに向かって尻を叩き、舌を出すなど、挑発する)

アースラ もっと！もっとよ…！
アハド (更に激しく尻を叩く)

アミル (発砲。アハドの足を撃つ)
マーシヤ4 (悲鳴)

アミル アハド、俺は政府を許さない…

アミル、壁の肖像画を、憎々しく外す。

アミル 何故なら…

すると壁には穴が開いており、ちょんまげを結ったお侍が、立っている。
アミル、驚く。

お侍 ……ん？
アミル ……誰だ

お侍 ……拙者か？

問。

アハド (苦しみつつ) ……アミル、いったい、何故なんだ…
アミル いや、お侍が……

アハド おさむらいが…？
アミル お侍が、居る…

アハド なるほど…。おさむらいが、いるから、か……(深く納得し、そして、意識が遠のく)
アミル ……。(急ぎ肖像画を戻し) マーシヤ、来い！

アミル、マーシヤの腕を取って、去って行く。
アハドは痛みに呻き、アースラ、アハドに駆け寄る。

アースラ 大丈夫。私、アハドのことが大好きよ
アハド アースラ……

少し間。

アースラ ええ…、心から、愛しているわ。だから、大丈夫……

美しい音楽が流れ、アースラ、アハドを抱えて部屋を出ていく。
残されたままのキヨシ。

FILM 『アリスとパン』

美しい音楽と共に、各国の美しい風景の画像。
だがその全てに、キヨシが居る。
遠くに、近くに。また、遠くに。

SCENE 『海中 潜水艇』

キヨシが下手のテーブルの椅子に座ったまま、水中音と機械音。
中央舞台に、潜水艇の乗組員がやってくる。政府の潜水艇。

乗組員1 ん…？

キヨシ あ、キヨシです。

乗組員1 どうやってここに入った…？

キヨシ ああ。どこにでもいる男なんで

乗組員2 (やって来て) どうした？ 同志(そしてキヨシを見て、とても驚く)

乗組員1 あっ…！ こいつ今、向こうの船室にも居たぞ、いつの間に… (来た方を振り返る)

乗組員2 どこにでも居るんだそうだ

乗組員1 え？

乗組員2 どこにでも居るんだ

乗組員1 …あ。(よく分からないながらも)あの、この船室をちょっと使いたいんだが…

キヨシ あ、じゃ、(と、立ち上がり)お邪魔さまでした

乗組員2 ……。

キヨシ、船室から去っていく。

乗組員1 おい、入って来い！

そう言うと、乗組員1はスリムアップ手袋で、気になる部分を磨る。

すると、頭に大きな可愛らしいリボンを付けたサントスが、

今にも倒れそうなフランス娘、ニーナを支えて船室に入ってくる。

サントス ありがとう、助かった…

乗組員1 いや、人命救助も我々の仕事のひとつだ、ゆっくり休んでくれ

乗組員2 何か必要なものは…

サントス ああ、急いでリボン型のソファにローズクッション、あとハニー&バナナのポップリ、

それから、レースで作ったハートのランプシェードを… (ニーナを椅子に座らせる)

ニーナ …… (サントスにしか聞こえない程の、か細い声でサントスに何か言う)

サントス ああわかった。(乗組員らに向き直り) あと、うさぎのポーチだ

乗組員1 …すまん。この艦にそういったものは

サントス ニーナの命がかかっているんだ！ (札束の入った袋を、乗組員の方に投げる)

これで何とかしてくれ、頼む

乗組員2、とりあえずそれを拾い、
乗組員1と視線を合わせたのち、とりあえず船室を出て行く。
ニーナは、サントスの上着の裾を引っ張る。

ニーナ サントス……
サントス 喋るんじゃない
ニーナ サントス……
サントス なんだ、ニーナ
ニーナ ……かわいく
サントス あっ……！ ごめんニーナ（そして、かわいい仕草と、かわいい顔を、する）
ニーナ （それを見ると、少し具合が良くなる）…ありがとう。ごめんなさい、私のせいで
サントス （更にかわいい仕草で）いいのじゃよん。ニーナはわるく、ないんにゃよん
ニーナ うっ…（苦しみだす）
サントス あっごめんニーナ、かわいくなかったか？！
ニーナ ううっ…（苦しむ）
乗組員1 ……なんなんだ
サントス ああ、ニーナは重度の「かわいい依存症」で、
可愛いものに囲まれていないと、死んでしまうんだ…

そう言うと、サントス、自分と同じ大きな可愛らしいリボンを、
乗組員1の頭につける。
すると、それを見たニーナ、途端に少し元気になる。

ニーナ すみません、ご迷惑をおかけして…。こんな私なんて、助けて頂いて…
サントス （それに気づきつつ）ああ、ニーナは溺れた俺を助けてくれたんだ、だから
ニーナ 私、崖から身を投げたの。こんな病で生きていくなんて、もう辛すぎたから…
でも、苦しくて苦しくて、もがいていたら、漂流する小舟を見つけて…
サントス そのニーナの小舟が、俺を助けてくれたんだ、だから
ニーナ かわいくないわよね、漂流する小舟を見つuckerのも、それに乗って命が助かるのも、
そのうえ、その小舟で、溺れた男を助けるのも、ちっとも…
サントス それを言ったら崖から身を投げて自殺するのも、全然かわいくないよ、だからニーナ
ニーナ それに、助けてくれた潜水艇の乗組員さんにご迷惑をかけるのも、全然かわいくないわ
サントス ニーナ
ニーナ （興奮し、苦しみだす）私、かわいくない、かわいくないことばかり…！
こんな私なんて、やっぱり…
サントス ニーナ、ニーナ…！（可愛い仕草で）しっかりするにや、お願いにや…！

懸命に、かわいい仕草をするサントス。
しかし更に、苦しむニーナ。
サントスは、かわいい仕草をしながら、
それをただ見ている乗組員1を睨む。
乗組員1は、睨まれ、仕方なく、片手でかわいい仕草する。

乗組員1 しっかりするにやん
それを見ると、やはり途端に具合が良くなるニーナ。
立ち上がり、スタスタと歩き出す。

ニーナ ああ…、私、どうすればいいのかしら、この先…

サントス (それに気づきつ) ねえ、大丈夫。俺がいるよ、ね、

俺がいれば大丈夫だから…(と、後ろから、ニーナの手を取る)

ニーナ サントス…(振り返る)

サントス 俺、ニーナのためなら何でもするから

サントス、どうしてそんなに…(と、サントスを見つめ、再び徐々に弱り始める)

サントス だって、命の恩人じゃないか…!

ニーナ いいのよ別に、たまたまなんだし…(明らかに具合が悪くなっていく)

サントス いや、良くないよ…!だって、俺にはもう、ニーナしか…(ニーナにぐっと迫る)

ニーナ うっ…(倒れる)

サントス あっ…ニーナ!(抱きとめる)

ニーナ ……。(死ぬ寸前)

サントス ニーナ! ニーナ! しっかりして、目を開けて

ニーナ ……。(死ぬ寸前)

そこに、乗組員2が、戻って来る。

乗組員2 寝室の用意が出来たぞ

乗組員1 では女性はこちらに、こちらは男性の寢室にしよう

ニーナ (そう言っと、屈んで、ニーナに向かって、可愛い仕草で言う) ニーナ、行くにゃ

サントス (途端に具合が良くなり、すっくと立ち上がる) ありがとう、ごめんなさい

サントス ……。

ニーナ (サントスを見ずに) …じゃ、また明日

サントス 俺が! 俺が、ニーナのために、世界中を、可愛くしてやるから…!

間。

ニーナ ……。ありがとう

ニーナ、振り返って、ゆっくりとサントスに近づき、サントスの頬にキスをする。するとその瞬間に、大きく嘔吐き、倒れそうになる。

乗組員2 (ニーナを支えて、サントスに言う) ああ、これ。うさぎのポーチだ

ニーナ (それを奪い取り、途端に回復する) あっ、ありがとう…!

乗組員2 (サントスに) 船員のジュゼッペから、無理やり買い取った

サントス あ、ああ…

乗組員2 あの金は、全部使ったぞ

サントス ああ…

乗組員2 (ニーナに) さ、こっちだ

ニーナ、乗組員2の後に続いて歩きだすが、途中で立ち止まる。

ニーナ (後ろを向いたまま) ……サントス。部屋から出るのは、かわいい?

サントス (離れたまま) ああ…、かわいいかわい…

ニーナ 右足を出すのも? 左足を出すのも? 歯を磨くのは? ベッドで寝るのは?

サントス ああ…、全部全部…、かわいいよ…、本当に…

ニーナ ありがとう…。おやすみなさい…

乗組員2 (ニーナに) 行くぞ

ニーナ、乗組員2と共に、上手へと去って行く。

少し間。

乗組員1 さて。他にも海難救助した者が居るんだが、同室で構わないな？
サントス ああ。別にいいよ…(と言うと、乗組員1の頭のリボンを乱暴にむしり取る)
乗組員1 入って来い(と言うと、スリムアップ手袋で気になる部分を摩る)

アメリカ人夫妻のダニエルとソフィア、
その後に、血まみれの服で、血まみれのナイフを持ったミツ●ー、やって来る。
ミツ●ーはそのまま奥まで行き、部屋の隅に座る。

ダニエルとソフィアは寄り添い、
ダニエルの片手はソフィアの服の胸元の中に、がっつり入っている。

ダニエル おい君、我々は同じ部屋でいいんだが…

乗組員1 この艦の規則ではそうはいかないと言っているだろう。ご夫人はあちらへ
ダニエル しかしワイフが…

ソフィア 我々は神の元に結ばれた夫婦ですから、構わないじゃありませんか？
乗組員1 どうかご理解ください

ダニエル …。(真面目な顔のままソフィアを少し揉む)
ソフィア あんっ…、ダニエル(乗組員1に)とここでこの艦内…、とても暑くありません？
乗組員1 そうか…？

ダニエル …。(更に揉む)

ソフィア ええ…(感じながら)とても暑い…、倒れそう…
乗組員1 そうか。おい！

乗組員3、小走りにやって来る。

乗組員3 お呼びでありますか！(敬礼)

乗組員1 ああ、部屋の温度を、二、三度下げてください
乗組員3 はっ！(敬礼)

乗組員3、部屋の端まで小走りで走って行き、
壁に設置された扉を開けて、機械を操作し始める。

乗組員1 とにかく、ご夫人はあちらの部屋へお願いします

ダニエル (ソフィアを揉みながら)しかし…

ソフィア (感じている) 私たちは、あんっ…、夫婦なんですよ…、ああ…

ダニエル (ソフィアを揉みながら) なんとかならないのか…

そこで、「シューー…」と音がする。

乗組員1、上を見てちょっとそれを気にする。

サントス (嫌悪感を抱いて夫妻を見ており)…あの、俺は別にどこでも、
なんならその辺の廊下でも構わないよ(ミツ●ーに)君もいいよな、行こう

ミツ●ー ……。(話を聞いておらず、立ち上がらない)
乗組員1 (サントスを引き止めて) いや廊下は駄目だ。

それにたとえ夫婦でも、男女同室というのは

「シューー…」と、再び音がする。全員、ちょっとそれを気にする。

乗組員1 この艦の規則としても……

「シユーー……」と音がする。全員、それを気にする。

乗組員1 許されることではないのだ……（なんの音だろう？）

サントス ……？（なんの音だろう？）

ダニエル （ソフィアを更にまさぐりながら）そんなもの、報告をしなければいいことじゃないか
ソフィア （更に感じつつ）そうよ、石頭のわからずや……！

そこで唐突に、大きな爆音が、幾度か轟く。

船体、大きく揺れる。

全員 ？！

乗組員1 なんだ……？！

地鳴りのような音が続き、船体が揺れ続けるなか、

乗組員2が、大きな無線機を持って、駆け戻ってくる。

乗組員2 聞いてくれ……！ 第5潜水艇から無線が入った……！

乗組員1 どうしたんだ、何があった、

乗組員2 第5潜水艇が、攻撃をしかけてきたんだ！

乗組員1 なに？

乗組員2 いまの爆撃で、一瞬にして、船底のこの部屋以外は大きく破損を……

乗組員1 なんです、味方の潜水艇だろ、

乗組員2 しかしそれが、この第1潜水艇が今、第5艇に向け、魚雷を3発撃ってきたと……

乗組員1 魚雷……？

再び爆音が出て、船体、大きく揺れる。

続いて無線の呼び出し音。

乗組員2 （無線機を見て）あ、無線が、第5潜水艇からだ、

地鳴りのような音が続くなか、乗組員2、無線に応じる。

すると無線の繋がる音がしてから、無線機から声が聞こえる。

キヨシ 「あ、キヨシです」

乗組員1 えっ

キヨシ 「あ、先ほどはどうも」

乗組員1 どうして……

キヨシ 「すみません、どこにでも居る男なもんで。あ。今、艦長さんに替わりますね」

ほんの少しの間後、無線から艦長の声がする。

艦長 「……貴様ら、反政府の連中に艦を乗っ取られたのか、それとも気でも狂ったか、

或いは最初から、裏切り者だったのか！」

乗組員1 は……？

艦長 「今、貴様らの艦体から、魚雷が3発、我が艦体に……」

乗組員1 ちよっと待て。なんのことだかさっぱりわからない

艦長 「魚雷だ！ 貴様らの魚雷が我が艦体に命中し、我が艦体は操縦不能に……」

乗組員1 ……。
乗組員3 (機械をいじり) ……あれ?
全員 (乗組員3を見る)
乗組員3 ……あ、やっぱりこれが

乗組員3、ボタンを押す。
するとまた、「シューー…」と音がする。
乗組員3以外全員、音のする方を見上げる。
そして、少しの間のおと、無線の向こうで、大きな爆音。
無線の向こうで悲鳴がしたかと思うと、
無線は雑音と共に、ぶつぷりと途切れる。
問。
乗組員3、振り返って、誇らしげに敬礼をする。

乗組員3 温度を4度、下げました!
乗組員1 いや、下がっていないな……
乗組員3 えっ…(踵を返して、再び機械を見る)

「ゴゴゴゴ…」と、地鳴りのような音が、大きくなっていく。

サントス ニーナ！ニーナ！（上手に向かって走り出す）
乗組員2 待て！どこに行くんだ（サントスを抑える）
サントス 離せ！ニーナ…！
とにかく避難だ！
乗組員1 いやここが一番安全だ！ 他はもう…
乗組員2 艦体の破損はそんなに酷いのか…！
乗組員1 恐らく先ほどの爆撃で、我が艦体もコントロール不能状態だ…
サントス ……！
乗組員1 ……。
乗組員2 誰かが操縦室へ行き、船首を上に向けることさえ出来れば、
乗組員1 わずかだが可能性は…、しかし…
全員 ……。
サントス 俺が行く！
乗組員2 いや危険過ぎるんだ、操縦室に行くには、
乗組員1 お前は皆を最船底へ、私が行こう
乗組員2 しかし…！

ダニエル、ソフィアからやっと手を離し、乗組員1を制する

ダニエル いや、私が行こう
乗組員2 えっ…
ダニエル 誰かが行かねば、ならぬのだから
乗組員1 私が(と、走り出そうとする)
ダニエル (乗組員1の前に立ちはだかり) いや！ 君は残ってくれ、
乗組員1 残された皆には、船員の君らが頼りなんだ
…。
ダニエル 皆を最船底に連れて行き、なんとか救助を求めるか、脱出方法を考えてくれ、
乗組員1 いやしかし…
ダニエル それしかないんだ…！

乗組員1 …。
ソフィア 行かせてやってください！

皆、ソフィアを見る。

ソフィア ペットینگしか能のない旦那ですが、正義感は一倍ですから…！

間。

ソフィア だから、主人を行かせてください、お願いします…

ダニエル 頼む…

乗組員1 …。

乗組員2 …（少し考えて）しかし、ペットینگしか、能がないんだろう…？

ソフィア ええ…、ペットینگの他はなんにも出来ないどころか、右も左もわかりません…

でも！ 正義感だけは、人一倍なんです…！

乗組員2 （乗組員1を見る）

乗組員1 いや、…正義感だけではどうにも

ダニエル ……私が行くしかないのだ、命は惜しくない…、皆とソフィアが助かる可能性を、

わずかにでも切り開くことが出来たなら…、それだけで…私は…

ソフィア ダニエル…

ダニエル （ソフィアをちよつと揉む）

乗組員1 （乗組員2を見る）

ダニエル さあ、操縦室はどこなんだ、教えてくれ…、私を、信じてくれ…！

少し間。

乗組員1と2、視線を合わせ、うなづく。

乗組員2 よし…、わかった…

ダニエル （上手前を指差して）操縦室はあっちだ。真っ直ぐ進み、二番目の通路を…

乗組員2 わかった！ 行くぞ！（しかしまるきり逆の方向、下手に向かって全速力で走り出す）

乗組員1 …え

乗組員1 あっ、待て、そっちは、

ダニエル、下手の階段を駆け上がると一段と大きな爆発音と共にそこが光り、

一瞬にして吹っ飛び、消滅する。

間。

そしてソフィア、ものすごい悲鳴をあげる。

サントス ニーナ…！（再び上手に向かって走り出す）

乗組員1 あっ、待て…（追う）

サントス 今いくからな、ニーナ！（走り去る）

そうして、サントスと乗組員1は上手に走り去り、

地鳴りのような音が、いよいよ大きくなっていく。

乗組員2 仕方ない（乗組員3に）おい、最船底に行くぞ（ミッ●ーに）さあ君も！

ミッ●ー ……。（話を聞いておらず、立ち上がらない）

ソフィア （下手階段に駆け寄りながら）いやああああ！ ダニエル、ダニエル！

乗組員2 さあ来い！（ソフィアの手を引く）

ソフィア ダニエル……！

乗組員2と3、ミッ●ーとソフィアを、
無理やり上手の階段に引き連れ、階段を降りて去っていく。

そうして舞台上に誰も居なくなり、爆音が静まると、

「ブーン……」と音がして、

「カシヤカシヤカシヤカシヤ」と、数字が勢いよく減っていく。

「14,997,000」 → 「14,980,000」

SCENE 『海辺 6 東京 反政府運動 / アンソニー ミルの家の裏庭』

遠めの海の音。

下手奥舞台にはマーシヤ4がやって来て、窓の外の海を見る。

中央舞台にはスーツ姿で眼鏡をかけた女、前島がやって来て、
テーブルを舞台の中央に移動し、椅子も移動し始める。

すると、「ピーピーピー」と電子音がして、

頭のテックペンに大きなアンテナをつけ、

銀色のピチツとしたシャツと短パンで、

素足に銀色の靴を履いた男、中央舞台に走り込んで来る。

※以降、ピーピー音が鳴り続けるなかで。

男 ……くそっ！どこなんだ…（と、辺りを見回し、前島を見つけ）あっ、突然すみません、
この辺で、不審な男を見かけませんでしたか？

驚き手を止め、物凄く不審なナリの男を、ただ見つめる前島。

男 ……不審な男です

前島 ……え…、あ……

男 ……（頭上のアンテナを指差し）不審者が、探知されているんですよ！

前島 ……はあ……（頭から足まで、男の全身を見る）

男 ……（まだ鳴る警報音。左右を見回し）……ちくしょう、いったいどこに居やがるんだ！

男、走り去って行く。ピーピー音もフェードアウト。

前島 ……。

下手奥舞台では、声がする。

マーシヤ1 ……（声）安心してマーシヤ！

マーシヤ4 ……？

音と光りを浴びて、マーシヤ1、下手奥舞台に現れる。

マーシヤ4 ……マーシヤ！（思わず駆け寄ろうとするが）

マーシヤ1 ……ううん違うの。落ち着いて聞いて。私は三分後の未来からやってきたマーシヤなの

マーシヤ4 三分後？

マーシヤ1 そう。今はとっても不安でしょ？でも大丈夫。

あなたはもうあと一、二分もしたら、ふいに思い出すわ、自分の夢。

そして悟るの。今はもう他にマーシヤは居ない、この「私」こそがマーシヤだって。そして決意するの、これからは一人で強く、生きていかなきゃいけないって。

あなたにとってそれは、人生を変える大きな気づきになるのよ。

そして目指すのよ、幼い頃からの夢だったプリマを！

いつかあの島に戻って、お父さんとお母さんに、

新しい靴をプレゼントするために……！

……はあ

マーシヤ4 (うふふと笑い) ……ピンと来ないでしょ

マーシヤ4 うん……

マーシヤ1 私も、全っ然、ピンと来ない。だってこうやって、先に全部、聞いちゃったから

マーシヤ4 え？

マーシヤ1 だから全然、ピンと来ないのよおおお(と、再び音と光りを浴びて、去っていく)

マーシヤ4 え、ちょっと待ってよ……

マーシヤ4、マーシヤ1を追おうとするが、ふと立ち止まって、

過去を思い出し、そして悟る。

マーシヤ4 ……あー！

しかし一転、暗い表情になる。

マーシヤ4 ……でも、全然、ピンと来ないよ

そう言つと、再び窓の方へ向き、海を見る。

遠めの海の声。

中央舞台には、スーツ姿の野中がやってくる。

野中 前島さん、資料は？ 集まった？

前島 (気づかない)

野中 おい、「前島」さん

前島 え…？ あ、はー！

野中 資料。集まった？

前島 あ、なんとか！

同じくスーツ姿の関口、やって来る。

関口 (あくびしつつ前島に) おー、早いじゃん。はりきってんね

前島 ああまあ

関口 連日遅くまでだったのに

前島 私、ぜんぜん平気ですよ

関口 まあ俺なんかは前からもう、残業続きとかは慣れっただけだよあ… (またあくびをする)

前島 (笑って) ほんとですか？

野中 さてと(と、椅子に座ろうとするが) あ、まず珈琲でもいれようか

関口 いいね

前島 あ、私いれます

野中 あー悪いね

関口 ありがとう

ふいに「カシヤ」と数字が減る。

「14,980,000」 → 「14,979,999」

全員、それを少し気にする。
そこに、スーツ姿の坂下、やって来る。

坂下 おはよー

野中 あ、おはよーっす

坂下 あー、頭痛い

関口 え、生理っすか

坂下 違う。二日酔い

関口 え、昨日あれからまだ？

坂下 ちょっとカラオケ行っただけ。(前島に) ねー

関口 相変わらずだなあ

野中 あんま飲みすぎない方がいいっすよ、太るし

坂下 大丈夫。あたし飲む時は食べないから

関口 あー

前島 坂下さんも飲みますよねー

坂下 飲まないよー、そんなに強くないしー

野中 え？ あ、珈琲珈琲

坂下 あ。飲む飲む。んー。ブラック濃いめで

関口 え、俺は薄めがいいなあ

前島 えー？ もう、テキトーですよー

皆、笑っていると、ふいにまた「カシヤカシヤ」と数字が減る。

「14,979,999」 → 「14,979,997」

皆、止まって、それを気にする。

そこに下手端の電話が鳴る。

前島 あ、出まーす(電話をとって) はい、反政府活動の「ヒラタ」です！

スーツに作業着の上着を来た平田、やって来る。

平田 おー、いい匂いだな。俺にもくれ

前島 はい。ちょっと待っててくださいーい(電話に戻る) はいはい、何でしょう

皆 (口々に) おはようございます

前島以外、皆、自分の席につく。

ここで下手奥舞台のマーシヤ4、何かを思い立ってそこから去る。

平田 (座って) ……で？

野中 あ、はい。えっと…(書類を読みながら) かなりヤバい状態ですね。

たまたまスリムアップ効果の高い大豆ペプチドの開発に成功した、

政府の指定工場が稼働する、この江東区周辺は、経済的には何とかなっていますが…、

それ以外の世界の人口のおよそ9割が、極度の貧困状態にあります。しかし政府は具体的な対策を何ら打たずに、しそダイエットに励んでいますしそ？

野中 はい。で、そんな状態なので各地との連絡もなかなか…

平田 ちょっと待て。しそで痩せるのか？

野中 はい、しそしか食べないんだそうです

平田 しそしか？

関口 で、暗号を使ってネットで連絡の取れていた各国の団体とも、遂に連絡が、

取れなくなりました…。あ、前島さん資料

前島 (受話器を抑えて) あ、そこにありませう(と、テーブル上の資料を指す)

関口 多分、何らかの理由で回線が途切れたか、或いは…

野中 (資料をめくりながら) …あ、中東の回線もか？

坂下 (資料をめくりながら) そんな…

野中 (資料をめくりながら) まいったな…

平田 (資料をめくりながら) で？ そもそも大豆ペプチドってのは何なんだ

関口 え？ さあ…

平田 あ。大豆のあれか。ペプチとしたあれか

関口 ペプチ…？

平田 ほら、なんかこう、煮るところ、ペプチとしたのが、ほら、チドとするだろ。それか？

野中 ああ。まあ、多分それです

平田 ん…

坂下 で。その大豆ペプチドの材料となる大豆は、ほぼ海外の生産に頼っているのですが、

その生産農場も、この異常気象で…

平田 そうか…(立ち上がる)…と、いうことはつまり

少し考えながら歩く平田。

平田 その大豆が、…採れなくなっているんだな？

坂下 あ、はい。採れなくなっているのです。なので、この江東区の経済状況も…

平田 (座る) ……。

坂下 ……。

平田 ……どうなるんだ？

坂下 あ、ですから、この経済状況も、今後一気に、危うくなるだろうと…

平田 そうか…。ではまず早急に、その、しそのダイエットと、大豆のペプチドについて、

更に詳しく調べてくれ(と、立ち上がるうとする)

平田 いえあの。昨日の会議の結果としては、やはり、唯一残された我々が早急に、

政府に対して何らかの行動を起こすことですが、

この危機的状況を救う方法はないんじゃないかと…

平田 こうどう…？(野中を見る)

野中 あ、はい。この場合やはり、暴動などが、適しているかと

平田 ぼうどう…？

野中 ええ、あの。皆でこう、暴れる…

平田 あばれる？

前島 (電話) なるほどです。あ、少々お待ちください。リーダー

平田 ん？

前島 (受話器を抑えて) なんか直接お話ししたいって…

平田 あーはいはい今行きますよー(電話代わり) はい、お電話かわりました、平田です、

前島 はいはい、え…？

前島 (テーブルに戻って) ね、暴動、するんですか？ 私、初めてです

野中 え？ ああまあ、俺もだけど
前島 あたし、そんなに、暴れたことないですし
関口 まあ、それは、俺もだし？
坂下 え、何着てほしいんだらう
関口 え？ どうだらう
前島 やっぱりジャージとか？
坂下 動きやすい格好がいいよね
関口 持ち物は？ 用意するもの
野中 あー……

そこでふいにまた、「カシャカシャ」と数字が減る。

「14979997」→「14979990」

電話をしている平田以外、皆、それを見る。

坂下 (思わずちよっと笑って) ……ねえ。さっきからあれ、……何が減ってるの？
野中 え？ 何がつて、あれだろ？ じゃ、明日の会議では暴動の際の持ち物について…
関口 えっなに？ 知ってるの？ 何なの？
野中 え？ 何が？
関口 いやあの数字
野中 いやだから、あれだろ？ あー……
坂下 わっかんないんじゃないん
関口 知ったかしてんじゃないねえよー

三人、笑うと、「ブー……ン……！」と、大きく音が唸り、
これまでになく大きく、数字が揺れ始める。

平田以外、数字を見る。

間。

そして突如、これまでにない激しい勢いで、
「カシャカシャカシャカシャ……！」と、数字が減り始める。
目に見えないスピードで、数字が減っていく。
※以降、「カシャカシャ」と数字が減り続ける中で。

関口 (思わず立ち上がり) ちよ…なに？ なんかすつげえ減ってんですけど…
平田 (電話切って近くの前島に) まずいな、我々の活動と所在地が政府にバレたらしい
前島 えっ？ バレちゃまずいんですか？
平田 えっ？！
坂下 ねえ、あれ減るとどうなるの？ 減ったらもう増えないの？
野中 じゃ、ねえの？
関口 じゃ、いつかゼロになるのか？
野中 じゃ、ねえの？
坂下 えっ、何がゼロになるの?! 大丈夫なの?!
野中 知らねえよ! でもまだまだ、ゼロにはなんねえだろ? で、明日の会議は
関口 何がゼロになるんだよ!!

数字だけが「カシャカシャカシャカシャ」、激しく減っていく。

坂下 ……やだ、ちよつとあたし、早退する…(走り去る)
関口 ……え、ちよつと待てよ、俺も！(同じく、追っていく)
野中 あっ、ちよつ。

少し間。
残された野中、自分の席に戻ろうとする。

野中 ……なんだよもう

そこで「チーン！」と数字が止まる。

「14,979,990」→「5」

野中 え。……………ご？！ (二人の去った方に)ちよつと……………！
(もつ一度数字を見て)
え。……………ご？！

野中、腰が抜ける。

野中 ちよつとおい……！

野中、腰が抜けつつ、関口と坂下を追って去る。
それを呆然としたまま、見ている、前島と平田。

前島 ……せつかく就職が決まったつのに
平田 ……え？

前島 やつと出来た友達も、みんなでお祝いしてくれたのに……
平田 え？みんなに言ったのか……？

前島 勿論！ブログにもツイッターにもフェイスブックにも毎日写真をアップして…ミクシイも
平田 それだな……
前島 お父さんにもお母さんにも、もしかしたらどこかから伝わるかと思って……！

平田 逃げなさい
前島 なんで

平田 いいから
前島 いやです！私、別に何も悪いことしてないのに……！

平田 いや、そうなんだけど。我々の活動は、見つかったら……
前島 いえ！何も悪いことしてないんだから、堂々としてればいいんですよ！

平田 いや
前島 だって！平田さんはいい人だし。なにより、世界中の人のためを思ってる事でしょう？
平田 褒められこそすれ、酷いことなんてされるはずがないです、そんなの許されませんよ……！

平田 ……そうか……？
前島 そうですよ！前に勤めてた会社の部下の皆さんが平田さんを慕って着いてきたって話、
私、感動しましたもん。社長さんが政治犯として投獄されて……、
平田 平田さん、凄いです！ね、だから大丈夫……ね？

前島 ……
平田 うん、平田さん、凄いです！ね、だから大丈夫……ね？
前島 ……

軍服の男、銃を構えてやって来る。

前島 あっ
あ……

前島 (軍服の男の方に、平田の背中をぐいぐいと押しながら)

平田 平田さんは、すごいです！ 優しくて頼れて、みんなに慕われていて、ちよつと待って……

前島 (押しながら) いつも残業のあとには、カラオケで十八番の襟裳岬をすごい美声で……

軍服の男、至近距離で平田を撃つ。

血を吹き出して頼れる平田。その血を浴びる前島。

前島 ……え？

問。

前島 (身体が固まり、軍服の男と平田を見れないまま) ……あ。……………。

そのまま、ゆっくりと、小さな蟹歩きを始める。

前島 ……そうですか。ごめんなさい。失礼します……

小さな蟹歩きのまま、少しずつ、その場を去っていく前島。

軍服の男、それを見送ると、スリムアップ手袋で気になる部分を一擦りし、

平田を担ぎ、慌てずに去っていく。

SCENE 『東京 道端 開戦』

映像のニュースキャスター、上手小舞台へ現れる。

首から小さな台をぶら下げており、両手で原稿を持って、前を向いて立っている。

そこに、小さな蟹歩きのまま、少しずつ、前島がやって来る。

しばらくそれを眺めるキャスター。

そして、自分の前を通り過ぎようとする時、いきなり声をかける。

キャスター (前島に向かって) ニュースです

前島 (ビクツとする)

キャスター (原稿を読み始める) 政府は先程、何者かにより第1潜水艇と第5潜水艇が

攻撃されたことをうけて、緊急トレーニングをおこない、

ダイエットの敵である「冷えとむくみ」に対し、宣戦布告を、言い渡しました

前島 ……はい？

キャスター 繰り返します。政府は先程、ダイエットの敵である「冷えとむくみ」に対し、

宣戦布告を、言い渡しました

前島 ……はい？

キャスター 戦争です

前島 え……、「冷えと……？」

キャスター 「むくみ」です。新陳代謝とリンパの働きの低下により、お肌の色もくすみませ

前島 はあ……

キャスター よって、政府軍はこれよりただちに戦闘態勢に入り、軍の出兵とミサイルの配備を
前島 ちよっと待ってください、どこに向けるんですかミサイルを
キャスター 「冷えとむくみ」にです

前島 ……
キャスター ということで、我々は只今より、全世界において全面的に、戦時下に置かれます、
ご注意ください
前島 ……

前島、周囲を見渡す。

前島 あの…、それを、なんで、私に言うんですか…？

キャスター 確実にニュースを伝えるための方針転換です

前島 ……？

キャスター まだどの地域におきましても、軍による攻撃、銃撃、爆撃に、備えてください。

安全な場所への避難を、急いでください。これより開戦です。

(言い終わると原稿を机に置き) 以上、ニュースでした

キャスター、おじぎをし、撤収し始める。

遠くで爆撃音がる。

前島 え…？

去ろうとするキャスターを、思わず引き止める前島。

前島 あっ、あの、それ、他の人達にも伝えるんですよね…？

キャスター (振り返る)

前島 あ、いえ、私だけ知ってても、意味ないと思うんで…(何故か笑顔を見せる)

キャスター ……。(「お前だけだよ」という、しぐさか雰囲気を見せる)

前島 え……

再び、遠くで爆撃音がる。

キャスター (素早く去って行く)

前島 ちよっと…!! 困ります!! ちよっと…!! (追って行く)

SCENE 『ツェンナ』

下手奥舞台に、再びマーシャ4がやってくる。

マーシャ4 アミル? アミル—

すると、先ほどと同じように下手奥に音と光りを浴びて、少女が現れる。

マーシャ4 マーシャ? (と、はっとして振り返るが)

ジョアンナ 私は十分後のジョアンナ。さっきまたお父さんに叱られたの、宿題はさっさとやれて。

でも学校から帰ったら少しお休みしたいじゃない?

だから私、反抗してお父さんに酷いこと言っただけを飛び出しちゃった。

後悔してるわ。お父さんは私のためを思って言ってくれているのだし。

だからジョアンナ、お父さんに従って大人しく宿題をやるのよ。

でない私、二度とお父さんに謝ることが出来ない。
だって私、その十分後には、車に轢かれて……

マーシャ4 え……

ジョアンナ (振り返って) ね？ 十分前のジョアンナ、絶対よ！ だから今すぐに……
……。ああ！間違えた……！

音と光りを浴び、無念の声を漏らしつつ、去って行くジョアンナ。

マーシャ4 あっ、ジョアンナ…、ジョアンナー……！ (思わず追って行く)

SCENE 『ペンチ工場』

マーシャ4 が去ると同時にサイレン音が鳴り、
中央舞台に、草臥れた工員らが集まって来る。

工員帽子を被り、手にはペンチ。力無く、整列する。

そこに、軍服を着た工場長がやって来て、工員たちの前に立つ。

工場長

さあ今日も、大豆のペプっとしたところを、チドっとさせるんだ。

工員ら

(気をつけの姿勢で敬礼) ハッ

工場長

怠けるんじゃないぞ

工員ら

(気をつけの姿勢で敬礼) ハッ

工場長は、そう言うと、立ち去る。

工場長が去りきると、工員たちは、

工場長が完全に去ったのを、慎重に確認し始める。

確認が終わると、工員1と2は、テーブルを下手端にやり、

使わぬ椅子を積み上げる。

工員3は椅子に乗る。

工員1と2は、工員服の上着を脱ぎ捨てる。

すると二人は、工員3の顔がプリントされたTシャツを着ている。

工員3は、1、2と同様、ただの草臥れた工員。

工員1

渡辺ー！ (疲れた魂を振り絞っての渾身の叫びを上げる)

工員1

渡辺ー！ (疲れた魂を振り絞っての渾身の叫びを上げる)

工員3

みんな、今日も頑張ってる？ 辛いことがあっても決して、挫けちゃ駄目だよ

工員1

渡辺ー！ (疲れた魂を振り絞っての渾身の叫びを上げる)

工員2

渡辺ー！ (疲れた魂を振り絞っての渾身の叫びを上げる)

そして工員3、工員たちに向けて、応援ソングを歌い始める。

工員1と2、自我を失い、目に涙を貯めて、無我夢中でフリを踊る。

しばらく踊っていると、ふいに声がする。

軍曹 (声) おい！ さぼってるんじゃない

はっとする三人。どこから声があったか探す。

しかし、誰も居ない。

軍曹 (声)

あまりさぼっているとどうなるか、わかっているんだろ？

工員1、下手階段横にぼつんと一っ落ちていて、軍曹帽子に気づく。
工員1が気づいたら、そこに照明。

工員1 (帽子に) ……軍曹？

軍曹(声) ああ

工員1 (帽子に) え？軍曹？

軍曹(声) なんだ

工員2 (帽子に) どう、したんですか？軍曹

軍曹(声) ああ、埋まってしまった

工員3 (帽子に) えっ。そこに、埋まってるんですか

軍曹(声) ああ、そうだ

工員1 どうして…

軍曹(声) 知らん！

短い間。

軍曹(声) さあ、早く仕事をするんだ。身を粉にして働くんだ

工員4(声) おい！

三人、声のした上先端を見る。そこに照明。
そこにはいつの間にか、工員帽子が一つ、ぼつんと落ちている。

工員2 (帽子に) …き、くち？

工員4(声) ああ、そうだ。ここに埋まってしまった

工員1 (帽子に) 大丈夫か、菊池、いったいどうしたんだ

工員4(声) 知らん！

短い間。

工員4(声) しかしこの工場の横暴にはもう我慢がならない、厳しい労働に酷い労働環境…
軍曹(声) お前、自分が何を言っているのかわかってるのか…！

工員4(声) ああ重々承知だ。もう耐えられないと言ってるんだ。お前達、ここから逃げる

軍曹(声) 菊池！

工員4(声) どの道この工場も、原料の大豆が入って来なくなれば閉鎖だ。今やそれも間近…

そうなればお前達には別の、もっと過酷な労働が強いられるんだぞ！

黙れ、菊池、いいかげんにしろ！

工員4(声) さあ、軍曹が埋まっているうちに行け…！

工員1 (帽子に) いやでも…、お前はどすするんだ…

工員4(声) ……おれは、埋まっているから…

工員1 菊池…

短い間。

工員3 わかった…。行こう

工員2 え？でも

工員1 いいから、行くんた！

工員ら、ペンチを持って、逃げていく。

軍曹(声) きさま、やりやがったな…
工員4(声) ざまあみるだ！ ははははは
軍曹(声) ただでは済まないぞ、重罪だ。極刑も免れん！

工場長が戻って来る。

工場長 お前達、もう大分ペペれたか。…あっ(誰もいない)
軍曹(声) いま逃げたところだ、追え！
工員4(声) 追っても無駄だ！

軍曹と工員4、埋まったまま、ひたすら罵り合う。

軍曹(声) おい、早く追え！
工員4(声) (笑って) 自分で追えよ、そこから出てみる！
軍曹(声) なんだこの野郎、こっちに來い
工員4(声) お前こそこっち來いよ、おら、來いよ
軍曹(声) お前が來い、この、臆病者、腰抜け！
工員4(声) うるせえ、やんのか？

工場長、しばらくそれを聞くと、
まず工員4の帽子を地面からむしり取り、その地面を足で踏む。

工員4(声) あっ…！
軍曹(声) よくやった、さあ、逃げた工員たちを追うんだ！ ん？

工場長、次に軍曹の帽子を地面からむしり取り、
その地面を思い切り踏む。ジャンプして何度も踏む。

軍曹(声) あっ…！
静まる工場内。
そこに突然、さきほどとは違う、
低く唸るようなサイレン音が、轟く。

工場長 ……！
驚き、静止する、工場長。

工場長 出兵だ…

SCENE 『海軍 1 出航』

サイレン音のまま、高らかにラッパの音がする。
工場長は、急いで上手に去って行く。
入れ替わりでマーシヤ4が、下手階段を降りて来て、中央舞台へ。

マーシヤ4 ねえ、この音、何？ アミル？ どこなの？ アミルー？
そこに、大勢の行進の足音と、低い太鼓の音が、聞こえてくる。

マーシヤ4 え、なに……？

行進は徐々に近づいてきて、マーシヤ4、思わず階段を数段あがる。

マーシヤ4 ……。

そして、軍の行進がやって来る。一糸乱れぬ行進。
勇ましく行進しては、スリムアップ手袋で気になる部分を摩る。
勇ましく行進しては、スリムアップ手袋で気になる部分を摩る。
そしてそのまま勇ましい音楽が始まり、軍隊は激しいダンスを踊る。
ひとしきり踊ると、再びスリムアップ手袋で気になる部分を摩り、
軍隊は行進を続け、去って行く。

マーシヤ4 ……。…なんなの？

音楽が去って行き、静まり、波の音が聞こえると、
大きなリュックを背負い、顔や服が汚れた前島が、
手に「戦争反対」と書いたプラカードを掲げ、
腹に「命は大事」と書いたプラカードを括り、
ふらふらの状態でやって来る。

前島 戦争反対、命は大事、みんな仲良く暮らしましょー…

マーシヤ4 (前島を見る)

前島 戦争やめる、平和が大事、みんな仲良く…

マーシヤ4 …何をしているの？

前島 あっ(と、思わず身をすくませて)違うんです、私はただ平和を、

だから蹴らないで、石を投げないで

マーシヤ4 は…？(階段を降りる)

前島 (恐る恐るマーシヤを見て) あ…

マーシヤ4 …何をしているの？

前島 (マーシヤに駆け寄る) 戦争を、ただちにやめさせるんです！

マーシヤ4 ……なに？

前島 今の、見たでしょ？ 始まるんですよ！ 冷えとむくみに、政府が、その

マーシヤ4 え？

前島 新陳代謝とリンパが、その

マーシヤ4 え？

前島 だから、戦争です！ 戦争が始まるんです！

マーシヤ4 戦争？ どうして？

前島 だから政府が…、んー…(説明出来ずに悶える)

だからお肌がくすんで…、んー…(説明出来ずに悶える)

マーシヤ4 ？

前島 だから！ とにかく、戦争なんか、やめさせないと！

マーシヤ4 (その必死な形相に思わず笑う)

前島 だって、危ないから…！ これから、爆撃とか、銃撃とか

マーシヤ4 (波の音のする、のどかな海岸を見回す) ……え？

前島 死ぬんですってば！(と、暴れる)

マーシヤ4 ……。(その必死な形相に怯え始める)

前島 うっうっうっ…。ほんとうなんです！(更に暴れる) 信じてください！(更に暴れる)

マーシヤ4 (思わず少し逃げる)

マーシヤを真っ直ぐに見て、マーシヤ向かってにじり迫って行く前島。

前島 もう今…！ いつ…！ どこで…！ 何があるか…！ わからないんですよ…！

マーシヤ4 あ……。そうですか、大変ですね…。

前島 (唐突に叫ぶ) ああああああああああああ！

マーシヤ4 (悲鳴をあげて階段を数歩、駆け上がる)

間。

前島 (また唐突に叫ぶ) ああああああああああああ！

マーシヤ4 (悲鳴をあげて更に階段を駆け上がり、去って行く)

一人、残される前島。

足で思い切り、地面を蹴る。

前島 ……。馬鹿…！

そして再び、プラカードを掲げ、フラフラと歩き出す前島。

前島 戦争反対…、命は大事…、冷えとむくみはお友達…

そうして前島、上手小舞台まで行くと、そこで力尽き、倒れる。

波の音、続く。

SCENE 『海草 2 愛憎』

波の音のまま、アハドが下手階段を降りてやって来る。

アースラが松葉杖を持って追ってくる。

アースラ あなた…！

アハド 今の音は何だったんだ…？

アースラ あなた、足は？

アースラ ああ、もうすっかり大丈夫だ

アースラ 本当に？ ああ、見せないで…！

アハド えっ(と、思わず立ち止まり、足を隠す)

(駆け寄ってアハドの服をめくり足を見て) ……ああ酷い、

とんでもないことになっているわ。このままでは駄目。何とかしないと…

アハド そうか…？(と、足を動かしてみる)

アースラ ええ…、このままではすぐに歩けなくなるわ…

もう二度と帰れないくらい、遠い遠い病院に入院するか、それか、

足をバツサリ切断しないと…

アハド 切断？

アースラ ええ。もう、ここからバツツサリ(と、その足に手刀)

あとこっちも(と、もう一方の足にも手刀)

あと腕も(と、腕に手刀)

あとここも(と、身体の中心を真っ二つに手刀)

そんなにか…！(と、自分の足をマジマジと観察する)

アースラ ええそうよ……(そしてまた目眩を起こす)

そこに、ハーシムが階段から降りて来る。

ハーシム あ、アハド、アースラ。アミルを見なかったか
アースラ ハーシム……!(目を合わせずに)……もう、具合はいいの?この、ウニコ野郎が
ハーシム え? ああ、おかゆをありがとう、美味しかった。おかげですっかり体重が戻ったよ
アースラ それは残念だったわね。糞インキン野郎はとっととむごたらしく
痩せ細って血反吐吐いて、肥だめにでも落ちて死ねばよかったのに……

アハド アースラ? さ! 早く行って! 顔も見たくないの。目が腐るわ。あーもう腐った。
アースラ あー臭い。わー臭い。なんて臭い人なの

(と、鼻をつまんで遠くから松葉杖でハーシムを押し戻し、アハドに言う)
ね、あなた、ほんと臭い

アハド ……え? ああ(と、ハーシムを嗅いでみる)
アースラ (更に松葉杖でハーシムを突きながら) あークツサ。うおええクツサ
ハーシム ああ、わかった、わかったよ。じゃな!(階段を上って去っていく)
アースラ (また目眩を起こす)

アハド、去っていくハーシムを少し追って、更に嗅いでみる。

アハド あ、ほんとだ!(嬉しそうに)言われてみれば、ちょっと臭いかもしれないな
アースラ ……。
アハド アースラ?

ここで穏やかなメロディをハミングしながら、
パステルカラーのスーツを着て、首から小さな台を下げた、女キヤスター二人が、
前島のもとに行き、前島を無理やり起こして、一発ビンタを食らわせる。
そして、薄っすらと目を覚ました前島に、ニュースを伝える。
アハドとアースラは、ただそれを見ている。

女2 (ハミングで穏やかな音楽)
女1 観光名所ともなっているバラ園が、満開の時期を迎えました!

温室などで年間を通して楽しめることでも話題のスポットですが、
野外のバラ園が満開の時期を迎えるこの季節は特に見応えがあり、
デートスポットとしても話題を呼んでいます。

前島 今年も多くのカップルが、ロマンティックな風景を満喫しているようですね
女2 はあ……
女1 次のニュースです

女2、くると前島を自分の方に向ける。

女1 (ハミングで穏やかな音楽)
女2 遂に「5」となった数字ですが、

「もう減らさない!」をスローガンに掲げたデモ隊と、
「増やそう数字!」をスローガンに掲げたデモ隊が、
先ほど衝突し、多くの死者と負傷者を出した模様です
はあ……

前島 以上、ニュースでした

女2、前島を放り投げる。
そして再び穏やかなメロディをハミングしながら、
女キャストらは去って行く。
前島は、また倒れる。
少し間。

アハド よし！じゃ、切断するか

アースラ ……えっ？

アハド 足を、切断しなきゃならないんだらう？

アースラ あ…

アハド こっちと（と、足に手刀）

あと、こっちも（と、もう一方の足にも手刀）

あと、ここと（と、腕に手刀）

あと、ここもか（と、身体の中心を真っ二つに手刀）

……！（思わずアハドに駆け寄り、その腕にしがみつく）

アハド ん？ どうした？

アースラ （その体勢のまま言う） ……そう、それしかないの

（しかし言うのと、慌てて口を抑える）

アハド アースラ？

アースラ （しかし抑えた口から言葉が漏れる） そうして…、お願い……

また目眩を起こし、倒れそうになるアースラを、アハドが抱き止める。

アハド ありがとう、アースラ。愛しているよ

見つめ合う間、少し。

アースラ （口を抑えたまま） ええ、アハド。私もよ……

アハド さ、行こう

アハドがアースラを支え、二人、去って行く。

波の音。

SCENE 『誰へ』

アハドとアースラが去ると入れ替わりに、
チェンチューと、首無しのチーリャオが、中央舞台にやって来る。

チェンチュー 兄さん、遅いね……（と、椅子を一つ取り、中央に座る）

しばらくすると、上手の階段から、
ピンチュンと同じ衣装の男が、上がって来る。

チェンチュー あっ、兄さん！

しかしそこには、衣装は同じだが、背丈も髪型も眼鏡もまったく違う、
明らかな別人が、ニコニコと立っている。

ピンチュン ただいまチエンチュー。ご馳走の用意は出来てるかい？（声も違う）
チエンチュー えっ？ …だれ？
ピンチュン えっ？ …だれだろう？（自分のこと）
チエンチュー 兄さん…なの？ 売ってきたんだよね、全部
ピンチュン あ、うん、売った！ だから、ピンチュンではないのかもしれない……
チエンチュー え、じゃあだれ……

ピンチュン、思わずチーリヤオにしがみつく。

ピンチュン ……？（首をひねる）
チエンチュー ……（思わず後ずさる）
ピンチュン ……だれだろう？
チエンチュー ……だれなの？
ピンチュン （ちよつと近づく）
チエンチュー ……だれだろう？
ピンチュン ……だれなの？
チエンチュー （ちよつと悲鳴）
ピンチュン ……だれなの？
チエンチュー ……だれなの？
ピンチュン ……だれなの？
チエンチュー ……だれなの？
ピンチュン ……だれなの？
チエンチュー ……だれなの？

少し間。

そしてピンチュン、無言のまま、

チエンチューの方に、いきなり全速力で走って行く。

チエンチュー、悲鳴をあげて、チーリヤオを連れて逃げる。

ピンチュン ねえ！ 俺、だれだろう?! 俺、だれだろう?!

悲鳴をあげて、チーリヤオを連れて、去っていくチエンチュー
ピンチュン、それを追って走り去って行く。

SCENE 『反旗』

ピンチュンの去るのと入れ替わりに、
アミルとハーシムがやってくる。
海岸沿いの、アミルの屋敷。

ハーシム それはほんとうなのか…
アミル ああ。江東区のヒラタとコンタクトを取るうとしたが、一切繋がらない…
ハーシム そんな…
アミル あそこが残された唯一の支部だったというのに…
ハーシム それはたしかなのか？
アミル もう何度も試した！ 恐らくバレたのだ、もうおしまいだ、
我々の反政府活動ももう…
ハーシム ……
アミル しかも、…あんなにあった数字ももう、たったの…、5だ…（椅子に座る）
ハーシム ……

ハーシム、数字を見ながら下手の方に歩くが、
その先に掛かっている肖像画を見て、立ち止まる。

アミル　しかしまさかあのアハドが裏切るとは。あの身体を、真つ二つに切断してやる……
ハーンシム　…アミル
アミル　アハドはどこだ…
ハーンシム　アミル…！
アハドを捉えるんだ…！
アミル、鼻くそがついている…！
（ハーンシムを見る）
鼻くそがついているぞ…！

短い間。

アミル　……は？（と、自分の鼻の下を少し触る）
ハーンシム　（肖像画に駆け寄る）間違いない、鼻の下に丸く、鼻くそのようなものが…

そこにアミルの妻、アイシャがやって来る。

アイシャ　あなた、マーシャが探していたわ
ハーンシム　アイシャ、知っていたか！　鼻くそだ。ここに…（と、肖像画を指す）
アイシャ　えっ…
ハーンシム　鼻の下に、丸く…
アイシャ　（上手の肖像画を急ぎ見に行き）こっちにはないわ…

ハーンシムとアイシャ、深刻な顔でアミルを見る。

アミル　…？

ここでマーシャ4、下手奥にやってきて、
海の見える窓を、海ごと外して抱え、階段をあがる。

ハーンシム　消されるぞ、セルライトどころではなく、命を…
アミル　え…
アイシャ　いくら政府が憎いからって…（短い悲鳴）よく見たらこっちには、鼻毛のようなものが
ハーンシム　まさか（と、上手の肖像画に駆け寄る）
アイシャ　ほら見て、鼻の下に小さく、鼻毛のような線が二本…！
ハーンシム　なんてことを…
アミル　…？

マーシャ4、窓を持って、上手の階段を上がって来る。

マーシャ4　アミル、私、海はもういらぬわ（と、海の見えている窓を、アミルに差し出す）
アミル　え？

波の音、一つ。

ハーンシムとアイシャ、それぞれに肖像画を自分の身で隠している。

マーシャ4　マーシャはこれから一人で生きていかなきゃいけないし、
だからもう海を眺めてぼんやりとかしないから、だからもう、いらぬの
アミル　（マーシャの持つ窓を見て）そうか…

マーシヤ4 それで私、決めたの。私、とりあえず、就職するわ！
アミル ああ、そうか偉いな。しかし海は、一応、その辺に掛けておいてくれ…
マーシヤ4 はい

マーシヤ、すぐ後ろの壁に、窓を掛ける。
すると窓の外から、大きな波の音と、ドーンという衝撃音が聞こえる。

アミル ん？なんだ？（窓の外を見る）…潜水艇？

マーシヤ4 （窓の外を見る）ほんとだ、潜水艇だわ、政府の…

ビクツとする、ハーシムとアイシヤ。

アミル どうやら座礁したようだな

マーシヤ4 あっ、人が出てくる

アミル 大変だ、怪我をしている、助けに行かないと

マーシヤ4 でもきつと、政府の人間よ

アミル いや、あれは民間人だ、行くぞ

マーシヤ4 うん！

マーシヤ、走り上手の階段を降りていく。

アミルも階段に向かうが、ハーシムがそれを止める。

ハーシム なんて馬鹿な事をしたんだお前は…！（と、アミルを殴ると、一旦上手に去る）

アミル え…？

アイシヤ （アミルの頬を平手打ちする）

アミル は…？

ハーシム （太い縄を持って戻って来る）…バシたんだよ、早速来たんだ、奴ら

アミル なにを…

アイシヤ 私、あなたがしたことが間違っていたとは思わないわ、でも憎むわ…

こんな形で、お別れしなければならぬなんて…

アミル え…いや…

ハーシム この島を出るんだ、今すぐに！

ハーシム、縄でアミルの身体を縛り、

その先に、小さな小さな、浮き輪を括り付ける。

アイシヤ （窓の外を見て）その崖からよ！海岸から死角になっているわ、さあ！

窓の外の、海の右端には、物凄く切り立った崖がある。

アミル ちよつと待て

ハーシム さあ！（アミルを引っ張って行く）

アミル ちよつと待てと言ってるだろう…！ 俺は何も…

ハーシム、アミルを連れて、階段を降りていく。

波の音が聞こえる。

一人残されたアイシヤ、窓に駆け寄るが、

しかしやはり窓から離れる。

アイシャ …私、秘かに語り継ぐわ。あの酷い政府に対して、強い勇気と信念を持って、反旗を翻したあなたを……。その気高きシンボルに、あなたの描いたあの、鼻くそと、鼻毛を掲げて……!

少しの間のこと、窓の外の高から、小さな黒い影が海に落ちる。遠くで小さく「ドボン」とあつけない音がする。

アイシャ さようなら……!

アイシャ、涙ながらに走り去る。

SCENE 『演壇 3 終戦』

また別のサイレンが鳴る。

小さな台を首に掛けたニュースキャスター、上手小舞台にやって来て、そこに倒れたままの前島を無理やり立たせる。そして前島の頬に、平手打ちを連打する。

連打しながら、前島を中央舞台に連れて行く。

前島は、徐々に目を覚ましていく。

前島 あ……

キャスター (前島に) ニュースです。

前島 へ……

キャスター だいたい、戦争が終結しました。繰り返します。だいたい、戦争が終結しました。さきほど出兵した政府軍ですが、「冷えとむくみ」の攻撃に無惨にも敗退。

この戦争は、敗戦に終わりました

前島 え……

キャスター これによりスリムアップ政府は完全に解体され、

現在すでに「冷えとむくみ」による統治が始まっており、

今後は少しでも「冷えとむくみ」を無くすためのスリムアップを諮る者が居れば、即刻、投獄や拷問を……

前島 はい……?

キャスター 今後は少しでも、スリムアップを謀る者が居れば、即刻……

前島 あの……

前島 ……それ、みんなに、伝えてください。私はもう、いいですから……

キャスター (無視) また特に、ジョギングに對しましては、

前島 (ふらつきながらも逃げながら) 私はもういいですから、もうやめて……!

キャスター (前島を捕まえる)

前島 もうやめて……、もう聞きたくない……

キャスター (前島に向かって) また、特に、ジョギングをする者に対しては、

前島 (耳を塞いで) あーあーあーあー

キャスター (前島にしっかりと伝える) 見つけ次第、狙撃するという事です

前島 (聞いてしまい) あー……、あー……、

キャスター 以上、ニュースでした

前島 ……。

そこを立ち去っていくキャスター。

そこにマーシャ4、まさにジョギング走り、上手前からやってくる。

マーシャ4 (ジヨギングしながら) あら？ 潜水艇はどこ？ もう沈んじやったのかしら
前島 (それを見て) あっ……！

マーシャ4 (ジヨギングのままグルッと回って上手奥へ去って行く)

大きなりボンをつけたままのサントスもまた、
まさにジヨギング走りて上手前からやって来る。

サントス (ジヨギングしながら) ニーナ…、どこだ……！

前島 (それを見て) あっ、だめ！

サントス 君が居ないと、俺はもう… (ジヨギングのままグルッと回って上手奥へ去って行く)

乱れた姿のソフィア、やはりジヨギング走りて上手前からやって来る。

ソフィア (ジヨギングしながら) ああ、ダニエル、私のダニエル……！

前島 (思わずソフィアを追って) 危ないっ！

ソフィア ああっ (ジヨギングのままグルッと回って上手奥へ去って行く)

血のついたナイフを持ったままのミツ●ーも、ジヨギング走りて上手前から。

ミツ●ー (ジヨギング) ……。

前島 (ハッとして振り向く)

ミツ●ー ……。(ジヨギングのままグルッと回って上手奥へ去って行く)

入れ替わりにマーシャ4、

さっきよりスピードをあげて、上手前からジヨギング。

マーシャ4 おかしいわ、今ここに座礁してたのに (ジヨギングのまま上手奥へ去って行く)

前島 あっ (止めようとするも追いつけず)

サントス、更にスピードをあげて、上手前からジヨギング。

サントス ニーナ、ああニーナ… (ジヨギングのまま上手奥へ去って行く)

前島 あっダメ！ (止めようとするも追いつけず)

ソフィア、全速力で、上手前からジヨギング。

ソフィア ああ……！ (ジヨギングのまま上手奥へ去って行く)

前島 ちよっ… (止めようとするも追いつけず)

ミツ●ー、全速力で、上手前からジヨギング。

ミツ●ー …… (ジヨギングのまま上手奥へ去って行く)

前島 待っ… (止めようとするも追いつけず)

マーシャ4、更に全速力で、上手前からジヨギング。

マーシャ4 …… (ジヨギングのまま上手奥へ去って行く)

前島 …… (止めようとするも追いつけず)

サントス、更に全速力で、上手前からジヨギング。
そこにふいに銃声が響き、サントス、静止する。

前島 ……！

そしてサントス、頭から血を吹き出す。

サントス ニーナ……

ゆっくりと地面に倒れる。

前島 あっ……………。

少しの間あと、前島、身体が固まり、
小さく蟹歩きを始め、そこを去ろうとする。
しかしそこに再び、キャスターがやって来る。

キャスター キンコン、キンコン、キンコン、キンコン
前島 ……。(無視して蟹歩きを続ける)

キャスター (前島に) キンコン、キンコン
前島 (キャスターを見ないまま蟹歩きを続ける) もういや、もう許して……

キャスター (前島に) キンコン、キンコン
前島 (キャスターを見ないまま蟹歩きを続ける) もう何も聞きたくない、お願い……

キャスター (前島の顔を掴んで、前島に言う) 臨時ニュースです
前島 いやああああ……！

キャスター さきほど統治を始めた「冷えとむくみ」ですが、彼等はたった今、
「冷えとむくみ」によって、死に絶えました

前島 (思わず) えっ……

キャスター カロリーの急激な摂取により血糖値が大きく乱れ、
心臓への過度な負担に、耐えきれなかったということですよ

前島 ……
キャスター よって現在、無政府状態ですが、世界秩序を取り戻すために各地の有力者が立ち上がり、
これより今後についてのサミットが、おこなわれるということですよ

前島 ……？
キャスター これでようやく、自由で平穏な日常が、もたらされますね

前島 ……？
キャスター これでようやく、平和な日常が、戻って来ます

前島 ……。
キャスター 以上、ニュースでした

前島 ちょっと……

前島、キャスターの去って行くのを見送った後、
自分のプラカードと、サントスの死体を、呆然と見る。

前島 ……。

そしてそのまま、どきっと、中央の椅子に座る。
数字、「カシヤ……」と減る。

「5」↓「4」

そして照明カットアウトし、完全暗転。
波の音が聞こえる。

SCENE 『その後』

そのまま静かな音楽が流れ、劇場内に、まだらに、かなり暗い照明が入る。
よく見えぬ薄暗い劇場内に、軍服の男が三人、やって来る。

二人は、あちこちの壁にかかった大小の肖像画を、新しいものに変えていく。
そしてもう一人は、客席に降りて行く。

客席の檻にうつすらと照明が当たり、その一人は、檻の鍵を開ける。

「ガチャリ」と、重い鍵の開く音。

鍵を開けた軍服の男は、鍵を開けると、檻に背を向け舞台上に戻っていく。

その間に、二人は全ての肖像画を掛け替え終わっていて、
三人、一旦、中央に集まる。

そして敬礼をすると、ゆっくりとそれぞれに、去っていく。

すると音楽が終わって、一気に明るくなる。

肖像画は全て、前の指導者のものから、

「Danieli」と書かれた、

ダニエルのダンディな肖像画に変わっており、
海に見える窓はなくなっている。

SCENE 『その後 東京』

そこに、バレエの衣装から、スーツ姿になったマーシャ4が、やって来る。
その頭には、サントスが頭につけていた大きなリボンと同じ、
かわいいリボンが乗っている。

マーシャ4は、中央の椅子に座ると、
下手の方に顔を向け、下手に向かって言う。

マーシャ4 うん、私は大丈夫。だって今、とても幸せだもん

そこに、やはり頭に大きなリボンをつけた、
スーツ姿の関口、上手からやって来る。

関口 あれ。一人？

マーシャ4 いいえ

関口 ？

マーシャ4 あ、野中さん、ちょっと外回り行ってくるって

関口 あ、そう…

マーシャ4 なんかすみません。私、まだ何していいんだかよく分からなくて…

関口 ああ(笑って) いいんだよ、まだ入ったばかりなんだし、それは別に

そこに、やはり頭に大きなリボンをつけた坂下、上手からやって来る。

関口 あ、おはよー

坂下 あー、頭痛い

関口 え、生理痛すか

坂下 そう

関口 あ(そうなんだ)

マーシャ4 あ、私、薬あります

立ち上がって、一旦、去っていくマーシャ。

入れ替わりに、シャツを着替えたミツ●ー、

後ろからこっそりと、部屋を覗く。

関口、それに気づき驚き、小さく声をあげると、

すぐにミツ●ー、引っ込む。

坂下 ねえ。平田主任、結局わかんないの？

関口 …え？ なに？

坂下 平田主任。どこに行ったか…

関口 ああ、やっぱりどこにも連絡ないって

坂下 そっか…

関口 でもま、良かったよ。昔みたいにまた、こうやって働けてさ。

坂下 平田さんも、そのうち帰ってくるでしょ

でもさ、前と違うじゃん、私、こんなの(と、頭のリボンを取るうとする)

しかしそこに部長がやって来て、坂下、慌ててリボンを元に戻す。

部長は立派なスーツを着た威厳のある男だが、

やはり大きなリボンを頭につけている。

部長 はい、お疲れぴよん

関口 …あ、お疲れにやまです

※以降、語尾等はかわいいが、あくまでも普通の口調で、淡々と会話する。

時々するポーズは、無意味。

部長 ほら、何をダラダラやってんによ(手を叩いて)はい、かわいくかわいく

坂下 はいにや 了解にや(と、かわいらしく机に向かう)

関口 (電話がかかって来て、とる)はい、もちもち、お世話ちやまでちゆ

そこに同じく頭にリボンをつけた配達員、小包を持ってやって来る。

配達員 失礼しますにや、配達ですにや(ポーズ)

部長 おお、ありがとう。君はいつもかわいいね

配達員 はいにや(小包をテーブルに置き)ありがとうごじやいまちゆにやにや(ポーズ)

部長 ああ本当にかわいい、かわいいね

配達員 恐れ入りますにや。それじゃ、失礼しますにやにやにや

(ポーズ。そして小包を改めて持って、去っていく)

部長 あー。かわいかった

そこにマーシャが小包を持って、急いで戻って来る。

マーシャ4 あっ、行っちゃいました？

部長 何が

マーシャ4 今、配達員の方が来てましたよね？ あーもう、また渡しそびれた

部長 それは何だ

マーシャ4 靴です。靴を買ったんです。初任給で

部長 で？

マーシャ4 だからこれを、国の両親に送りたいんですけど

部長 それを彼に渡してどうするんだ

マーシャ4 だから両親に

部長 彼は私に、かわいさを届けてくれたただけだ？

マーシャ4 …え？

坂下 で、マーシャ、薬は？

部長 坂下くん、かわいく

坂下 マーチャ。くちゅりは？

マーシャ4 あっ、ごめんなちゃい。今ちゅぐ

マーシャ、小包をテーブルの上に置き、

また急いで一旦、去って行く。

（電話に）はい、どうも。ちちゅれーちまちゅ（と言って、電話を切る）

…ちゅとも、かわいくないな

え

ちゅかりちてくれよ。今やかわいさだけが、我が社（ちゃ）を、いや、
社会（ちやかい）全体を、ちゅかりと、ちやちやえているのだからにや（ポーズ）

…ちんまちえん、はいにや（ポーズ）

（時計を見て）ちや（と、立ち上がり）、

ちよろちよろ親会社（ちや）の佐々木さん（ちやちやきちゃん）に、
かわいがってもらいに行つてくるにや（とてもかわいいポーズ）あとはよろちく

部長、去って行く。

関口 …ちやちゅが、かわいちゃだけで、ちようちんちてきた男にや

坂下 くだらない……

関口 え

SCENE 『再会 x 3』

ここで、「ギイイイイ」と、重い扉の開く音がして、

客席の檻に光が当たり、檻の中からゆっくりと、道野社長が出てくる。

関口 （何か気配を感じ）…ん？

坂下 （同じく）え…？

道野 関口くん…、坂下くん…

関口 （声のみを聞き）道野社長…？

坂下 （同じく）え？社長…？

「チャラチャラン…」と、素敵な音がして、壁の肖像画に光が当たる。

そして、その肖像画を外し、壁の中から道野社長が現れる。

道野 関口くん…！ 坂下くん…！

坂下 あっ…社長？ え？ ご無事だったんですか…！

道野 ああ、やっと解放されたんだ。懐かしいなあ…

関口 え？ どうして…

道野 まだ勤めてくれていたんだね

関口 勿論ですよ、他に行くところなんて…

坂下 正直、もう会えないかと…

道野 ああ、私もこうして帰ってこれるとは…

関口 でも、どうしてこんな所から…

関口、肖像画を元に戻していると、マーシャ4が戻って来る。

マーシャ4 ごめんなちゃい、やっぱりくちゅり、なかったでちゅ

坂下 マーシャ、ほら、道野社長よ。帰ってきたの！

マーシャ4 えっ？

坂下 ええ、スリムアップ政権時代に、政治犯として牢獄に捕らえられた…

マーシャ4 ああ！よかったです！

マーシャ、思わず社長に抱きつく、

また、「チャラララン」と、素敵な音がして、

別の肖像画に光りが当たり、皆、そこを見る。

すると、肖像画を外して、中から前島が現れる。

服は汚れて、ボロボロのまま。

前島 関口さん…！ 坂下さん…！

関口 えっ？ 前島さん？！

前島 関口さん！ 坂下さん！（壁から出てきて、関口に抱きつく）

関口 えっ、どうして…（そんなところから）

前島 会いたかった！（道野を見て）あっ…

坂下 社長よ。やっと解放されたの…

前島 そうなんですか？ ああ！良かった…！ 無事で良かった…！（抱きつく）

坂下 前島さん、あなたどこ行ってたの？ 何があったの？

前島 あ、ちよっと、いろいろ…（笑う）

坂下 心配してたんだから…！

前島 ごめんなさい…

坂下 もー！

皆、そうして喜び合い、関口が肖像画を元に戻していると、

また「チャラララン」と、素敵な音がして、別の肖像画に光りが当たる。

関口以外の皆、また誰か帰って来たかと、期待してそこを見る。

すると肖像画を外して、中から野中が現れる。やはり頭に大きなリボン。

関口 あ、野中

野中 外回りから、帰ってきたよ！

関口 （なんでそこから帰ってくるんだと思いつつ）…ああ、おかえり

野中 あっ、社長…？！

坂下 今、帰ってきたの

野中 あれっ、前島さんも……！
関口 今、帰ってきたんだ
野中 うわあ、おかえりなさい！（壁から出て、駆け寄り、握手など）
道野 ああ、おかえり
野中 ……凄いな、まるで昔に戻ったみたいだ
道野 ……ところで、平田くんは……？

またどこから出てくるんじゃないかと、期待して辺りを見回す道野。
ビクツとする前島。

野中 それが、連絡が取れないんですよ……
道野 え、そうなの？
関口 あ、はい、ここが、前の政府に、踏み込まれたという日から
道野 え？
坂下 だから私たち、あちこち連絡はしてみたんですけど
野中 あっ、そうだ前島さん！ あのと、平田さん……
坂下 そうだ！ 前島さん、たしか一緒だったんだよね、あの日、あのと……
野中 なにか知らない？
前島 えっ……？

少し間。

前島 あっ、ごめんなさい、あたし、なんにも知らないんです……
野中 え……
前島 あ、あたし、ちょっと、ロッカー室に用事が……

前島、小走りの蟹歩きでそそくさと、上手小舞台の方に向かっていく。
マーシヤ4、それをちよつと気にする。
関口は肖像画を元に戻す。

SCENE 『時代』

関口が肖像画を元に戻している間、
下手奥舞台には、自分の背丈ほどの昆布を連れた男がやって来て、
昆布とイチャイチャし始める。昆布の曲線を撫でたりする。

道野 ……。前の政府に踏み込まれたって……
野中 あ、はい……俺たち、社長が連れて行かれたあと……
坂下 平田主任が、率いてくれたんです。それで、みんなで、反政府活動を始めて……
道野 どうしてそんな……
野中 ……。
関口 ……マーシヤ。社長はいつも、残業中の俺たちのために、ご自慢の手作りおはぎを、
振る舞ってくれていたんだ。そして、あの夜も……
坂下 ええ、自らの身を犠牲にしてまで……、大量の、おはぎを……
道野 いや、頑張ってくれていた君たちへの、せめてもの感謝だよ、せずにいられないよ
野中 でも、あの政権下でそんな無茶を……
道野 あの頃は、毎日毎日、残業続きで、本当に申し訳なかったな……
関口 いいんです、だって誰より社長が頑張ってたし、家にだって、
ほとんど帰れなかったじゃないですか……！

道野 いや、君たちあつての、我が社だよ。こんなしがない製菓会社を、よくぞ支えてくれていた。だから私は、家に帰るよりも、君らに、大量のおはぎを……でも、そのせいで投獄されて……
道野 いいんだ。私に出来ることはそれしかなかったし、どの道あの政権下では、あのまま事業を続ける事は、出来なかつただろう……おはぎ社長……
道野 でもだからって、反政府活動だなんて……
関口 でも、それしかなかったし、俺たち、社長を、取り戻したかつたんですよ……！
道野 ……。
マーシヤ4 あ、あの
坂下 え？
マーシヤ4 私、ちょっと、もう一回、薬、探してみます
坂下 え？ もういいのに

マーシヤ、小走りに、上手小舞台へ向かう。

道野 あの子は？
坂下 ああ、先月入った、新しい子で

電話が鳴り、関口が取る。

関口 はい、もちもち……
道野 (もちもち?)
坂下 どうしても就職がしたいって言つし、まあ、かわいかつたんで……
道野 ……そうか。……で？ 今はどうなんだ仕事の方は。
野中 何とか頑張つて、やって行けるのか(と、椅子に座る)
道野 あ、何とか、キュートにやっています
坂下 ん……？
道野 そこそこ、チャージングに……？
野中 工場の方は？ 順調に動いているのか？
道野 いえぜんぜん。あの工場は、かわいくないんで
道野 かわいくない

上手小舞台では、前島が一人、心を落ち着けようとしている。
そこにマーシヤ4が、近づく。

〔上手小舞台〕
マーシヤ4 あの……
前島 はい？(びっくりして振り向く)

〔中央舞台〕

道野 じゃあ今は、何を作ってるんだ
坂下 あ、何も
道野 じゃあ今は、何を売っているんだ
野中 媚びです
道野 媚び

〔上手小舞台〕

マーシヤ4 前にお会いしましたよね……、あの……、海岸沿いの、道で……、プラカード持って……

前島 えー？（笑って）会ってない、会ってない、あだし、海岸とか、道とか、行ったことないもん、なに？

〔中央舞台〕

坂下 サントス現象ですよ
道野 サントス

〔上手小舞台〕

前島 なんの用？
マーシヤ4 あ、私、ちょっと、薬を探しに…
前島 ああそう、じゃ探して

前島、マーシヤに背を向けて、再び心を落ち着けようとする。

〔中央舞台〕

野中 んー…、何というか。まあ、社会現象ですよ。
恐ろしい独裁政権が終わって、今や、「かわいさ」の時代ですから
道野 かわいさ……
坂下 ええ、世界的に、かわいらしくあることが、何より重視されています。
野中 日本の「媚び」の輸出量は、世界第三位で
坂下 まあ、ほぼそれだけで、もってるようなもんですね
野中 通貨単位も、変わりましたし

下手奥に、無愛想なキオスク店員がやって来る。
そこにサラリーマンが階段を駆け下りて来て、新聞とガムを差し出す。

〔下手奥舞台〕

店員 はい、二百四十八キュートです
サラリー （キュートなポーズで、三百キュート分のキュートさを、示す）
店員 （ウインク等で、二キュート分のキュートさを返す）二キュートのお返しです。
ありがとうございますー

サラリーマンは階段を駆け上がり、店員は下手奥へ退場。

〔中央舞台〕

道野 で、その、「サントス」ってのは何なんだ？
坂下 さあ？
道野 …。あと、それで、だいじょうぶなのか…？
野中 え？
道野 いや、この会社も、社会や国も…
野中 （笑って）いえ全然。首相を筆頭に、他の議員も、まあ国民も、みんなただ、かわいいだけですから
坂下 そんなわけで、今はこの会社も…、かわいらしく……

関口、電話が終わり、電話を切る。

関口 大変だ、今、親会社(ちゃ)から、佐々木さん(ちゃちゃきちゃん)が、
野中 視察(ちちやつ)に来るって
え…

関口 もう、向かってるってさ(と、リボンを直す)
野中 うちよだる…?(と、リボンを直す)
道野 (二人のリボンを見ながら) 親会社?
坂下 すみません、この会社、併合、されたんです。かわいさ余って……
道野 ………。
関口 すみません…、社長……
道野 いや、いいんだ。…そうか。……「かわいさ」の時代、か…

ゆつくりと立ち上がる、道野。

道野 …となると、私の居場所は、もうないな
坂下 えっ…
野中 いや、待ってください！ 社長、これを…(と、新しいリボンを差し出す)
道野 私は昔ながらの男だ。来る日も来る日も、工場で油に塗れて……
道野 そうしてやっとこの製菓会社を築いたが、皆に、愛される会社を作りたかったが、しかし、うん、時代は変わる…
野中 社長…
道野 俺はこの時代に生きては行けないよ、潮時だ…
坂下 社長…
道野 それでいいんだ。俺はもう、引退すべきなんだよ

渋い表情で、ポケットに手を入れる道野。

道野 こんな時代に、こんな無骨な男は、もう必要ない。
それに俺にはこれから、やらねばならんことがある…。ちよんごいいんだ…

道野、渋い表情で、真っ直ぐに前を向く。
そこに佐々木、上等のスーツに、一際大きなリボンをつけて、やって来る。

佐々木 どうにや、ちっかりやってるか?(道野を見て)ん…?
道野 ああ。私はこちらを出て行く。この先、コイツらを、よろしく頼むよ……
佐々木 あんたは……
道野 (野中、関口、坂下に)…じゃあな

ゆつくりと去って行く、道野。
そんな道野を見て驚愕している、佐々木。

関口 社長……
佐々木 ………。かわいい
野中 ……?
佐々木 (道野に駆け寄る) かわいい!
道野 ……は?
佐々木 (道野にまとわりつく) かわいいい!
道野 なんだ、どうした…!

〔上手小舞台〕

マーシャ4 …あの、…戻らないんですか?
前島 (振り返ってマーシャの両肩に手を置く)
私は、平田さんの事、なんにも知らないの…

マーシヤ4 えっ…

〔中央舞台〕

佐々木 (道野の顔を両手で撫でながら) ありやりやりや、んまあ、

ほんとにかわいいでちゅねえ…！ おりよりよりよ

道野 は？

(道野を抱き上げる) おりよりよりよ

あっ、ちよっと何を…

坂下 社長！

関口 社長！

〔上手小舞台〕

前島 (マーシヤの両肩にしっかりと手を置いたまま)

他もいるいる、なんにも、知らない…！

マーシヤ4 え…？

前島 知らないの！

マーシヤ4 あ、はい…

前島 じゃ、戻る

〔中央舞台〕

佐々木 (そのまま走りだす) おりよりよりよ…！

野中 ちよっと待って！

道野を抱えて、走り去って行く、佐々木。

それを追って、野中、関口、坂下も、去って行く。

SCENE 『隠れ』

中央舞台、誰も居なくなり、

そこに、前島とマーシヤ4が、戻って来る。

昆布カップルは、抱き合いながら、下手奥へ去っていく。

中央舞台に進む前島とマーシヤ4の後ろには、

貧しい身なりの、キヨシの妻と息子と娘が、

こそこそと着いて来る。

前島 (中央舞台を見て) …あれ？ (誰もいない)

マーシヤ4 (後ろを振り返り) …あれ？ (誰かいる)

前島 (後ろを振り返り) …あれ？ (誰かいる)

キヨシ妻 あ。

短い間。

キヨシ妻 すみません、…キヨシ、知りませんか？

マーシヤ4 え？

キヨシ妻 どこにでも居る、平凡な男なんですけど…

息子と娘、なんやかんや騒ぐ。

キヨシ妻　　こら静かにしなさい！（二人に）すみません、うるさくて
マーシヤ　　はあ

キヨシ妻　　あ、気にしないで下さいね。どこにでも居る、平凡な、家族ですから

息子と娘、また、なんやかんや騒ぐ。

キヨシ妻　　（子供らに）こら！騒がないの！

息子　　（騒ぎ声をあげて、下手の肖像画を、バンバンと何度か叩く）

マーシヤ4　あっ…、やめて！

マーシヤ、これまでにない剣幕で、

息子に駆け寄り、息子の頭を、思い切り引っぱたく。

前島　　（思わず）あ、ちよっと！

マーシヤ4　（息子に）ダニエルに何すんのよ！

キヨシ妻　　（その剣幕に怯えつつ）あ、ごめんなさい、すみません、ほらちゃんと謝んなさい…

少し間。

マーシヤ4　…この方のおかげで、今の生活があるのよ。

ソフィア・エバンズ、彼の奥さんの書いた、『ダニエル記』、読んでないの？

息子　　……。

マーシヤ4　駄目よ、今年度から教科書にも載るし、ちゃんと教えておいてくれなきゃ…

キヨシ妻　　ごめんなさい……

小さく、荘嚴な音楽が流れ出す。

マーシヤ、肖像画を見つめながら、語り出す。

マーシヤ4　「第二章、深い海の中に隠された真実。

歴史を変えた偉大な男は、深い海の中に、人知れず沈んだ。

潜水艇の中で、たった一人、戦いを挑んだ男。

類い稀なる正義感で、死をも恐れず、悪の政府軍に立ち向かい、

命を賭けて、みんなを守った、彼の名は、ダニエル……。

そう。遂には、彼は、悪の政府の転覆を果たした。彼は、世紀の大英雄なのだ……！」

音楽、消えていく。

マーシヤ4　…政府軍の、あの出兵も、実は、彼と戦うためのものだったんです。

たった一人で反旗を翻し、行動を起こした彼…

そして、彼は、打ち勝ったんです。

誰にも知られずに、平和を、勝ち取ったんです。

今の平和があるのは、全て、彼一人の、お陰なんですよ…

キヨシ妻　　あ、はい、本当に、すみませんでした…

マーシヤ4　（前島にむきなおり）ねっ？　そうよね？

前島　　えっ…？

マーシヤ4　ごめんなさい、私、あの時、何も知らなくて。

まさか本当にあの軍の行進が、戦いに向かっていたとは……

前島　　あー……

マーシヤ4　ねっ、そうなのよね？　で、あのあとダニエルが…

前島 私は、なんにも、知らないから……
マーシヤ4 (再び肖像画を見て、うっとり) すごいわ、ダニエル。あの軍隊と……
前島 ……そうね
マーシヤ4 しかも凄い愛妻家で、物凄いペッティンガー……
前島 ……。 (肖像画を見る)

SCENE 『變』 一』

そこに、着物姿の女二人、道野の妻たち、ふるしき包みを持って、
上手奥からやって来る。

道野妻1 ああほら。もう居ない
道野妻2 やっぱり
マーシヤ4 ……?
道野妻1 道野の妻です
道野妻2 ここに来たでしょ？うちの
前島 あ、すいません、私なんにも知らないんです…
道野妻1 まだどこに行ったのやら……
マーシヤ4 ……え？(二人を見て前島に) えっと、どちらが…
道野妻2 (耳ざとく) 増えました
道野妻1 増えたんです、私たち(と、椅子に座る)
道野妻2 あれがあんまり心配をかけるもんだから(と、椅子に座る)

少し間。

前島 ……あ、すぐにお茶、お持ちします(と、逃げるように一旦、去る)
道野妻1 (キヨシ妻らを見て) ……あれはなに？
マーシヤ あ、どこにでも居る、普通の家族です
キヨシ妻 どうか気にしないでやって下さい、静かにしていますから
道野妻2 どうだか(疑う)
キヨシ妻 え、信じてください、ご迷惑おかけしませんから、この通りですから
道野妻2 (無視)
道野妻1 で、あなた何？うちのどこのういご関係？(マーシヤを上から下までじっと見る)
マーシヤ4 は…？

そこに、関口、二人になって、走って戻って来る。

関口1 (頭のリボンを外して) やべえ、まじやべえ
マーシヤ4 どうしたの？
関口2 (頭のリボンを外して) 社長が連れていかれて、坂上と坂下も捕まった、もう駄目だ
マーシヤ4 え？
関口2 きっとこの社は、グッズ化される

短い間。

マーシヤ4 ……？(関口2を見る) 誰？
関口1 (息を整えながら) ああ、増えた、ショックで増えた
マーシヤ4 ……。
前島 (お茶を二つ持って来て、関口らを見て) あ、もう二つ入れてきます(また去る)

マーシャ4 グッズ化…？(リボンを外す)

関口1 ああ…、もうお終いだ…

マーシャ4 そんなの困るよ…、まだ靴、一足つつしか買えてないのに

関口2 靴？

マーシャ4 うん、お父さんとお母さんに、靴を送ってあげなきゃいけないのに…！

テーブルの上の小包を見つめる、マーシャ4。

顔を見合わせる、関口1と2。

その小包を覗き込む、道野妻1。

道野妻1 (鼻で笑って) どうだか(疑う)

マーシャ4 え？

道野妻2 あなた、靴を送るなんて、しないわよ、絶対

マーシャ4 は？

道野妻1 それどころかその靴を踏み潰して、そこいらに捨てるでしょうね

マーシャ4 ちよっと、なんでそんなこと…！

前島 (お茶を四つ持って戻ってきて) お茶です

道野妻1 (お茶を見て) …さあどうだかね(疑う)

前島 お茶ですよ

道野妻2 あなたは？ どなたなの？

前島 知りません

道野妻2 え？

前島 私、なんにも、知らないんですよ

道野妻1 どうだか(疑う)

マーシャ4 私はマーシャです。あと前島さん

道野妻2 さあ、どうだか(疑う)

マーシャ4 私は、マーシャですよ！

前島 …！

関口2、マーシャの腕を取り、マーシャにこっそりと言う。

関口2 待って。奥さんは病的に、猜疑心が強くて…

道野妻2 (耳ざとく)なあに？ 私たちが病的に猜疑心が強くて、

死ぬほど悩んでも言うの？

道野妻1 (鼻で笑って) 馬鹿らしい！ 私たちは死ぬほど悩んでなんていないわ

道野妻2 (鼻で笑って) さあ、どうだかね…(疑う)

道野妻1 (道野妻2を睨む) ……。

前島 …あの、これ、お茶ですから。とりあえず、飲んでください

(と、湯のみをテーブルの上に置く)

道野妻2 けっこうです！

道野妻1 (道野妻2を見て) さあ、どうなんだか…(疑う)

道野妻2 (道野妻1を睨む) ……。

短い間。

関口1 あ、あの。会われたんですか？ 社長に。社長、ここに来る前に、家には…

道野妻1 さあ、どうだったかしらね。あの、人、以前からほとんど、家には帰りませんでしたから

道野妻2 獄中でこしらえたというおはぎを、持ってきたんだかどうだったか…

道野妻2、ふるしき包みをテーブルの上に広げると、おはぎが3つ。
しかし即座に、おはぎを疑い始める、道野妻ら。

道野妻1 (おはぎを怪訝そうに見て) おはぎなんだか、どうなんだか…
道野妻2 (テーブルを怪訝そうに見て) 机なんだか、どうなんだか…
道野妻1 (椅子を怪訝そうに見て立ち上がり) 椅子なんだか、どうなんだか…
道野妻2 (床を怪訝そうに見て立ち上がり) えっ?…床?
道野妻1 (部屋を怪訝そうに見渡して) えっ?…部屋?
道野妻2 (周りを怪訝そうに見回して) えっ?…地球?

と、道野の妻ら、少しワタワタする。

関口2 あっあの! 間違いありませんよ! これ、社長のおはぎです
関口1 ああ、懐かしいな!

道野の妻ら、ぴたりと落ち着く。

道野妻1 ああ。獄中でもずっと、こしらえてたらしいわ。何でしたっけ?
プレ無期懲役のジェイムズと、プレ死刑囚のヨハンというのが、
たいそうこれを気に入ったらしくてね(と、椅子に座る)
皆で協力して、そりやもう大量にこしらえてね、
囚人仲間と看守達にも配った(と、椅子に座る)
大好評だったらしく、そりやもう大量に大量にね。それでもどんどん無くなったと
でもそのプレ無期懲役のジェイムズは獄中で老死、プレ死刑囚の死刑は執行されたと
だからもうこれしかないんだと、これは社みんなに食べて欲しいからと、
直接渡すのは何だか照れくさいからと、そう言っただけと…

しかし急に鼻で笑う。

道野妻1 …さて、どうなんだか(疑う)
道野妻2 …ええ(疑う)
関口1 …あの、これ、いただいていいんですか?
道野妻1 さあどうだか…
関口1 いただきます…(一つ手に取る)
道野妻2 (立ち上がって) じゃ、私たちこれで
あ、そうだ(思い出し) あのですね。その社長が今、連れ去られて…
騙されちゃ駄目よ。いつもそうなの。嘘なのよ
関口2 え?
道野妻2 毎日毎日、仕事だ残業だ接待だ何だかんだと。あれ、全部、嘘ですから
関口2 いや…(と、関口1と目を合わせる)
道野妻1 長いこと捕まっていたのも、きつと嘘。
道野妻1 ここで社長をやっていたのも、きつと嘘。
道野妻1 あの人の存在自体が、きつと嘘。
道野妻1 だから私がここに居るのも、きつと嘘。
道野妻1 なにもかも、全部が全部、嘘ですから…!

関口2 奥さん、落ち着いてください
道野妻2 落ち着いています、落ち着いているから言っんです
道野妻1 (突如前島に) あなたが何も知らないのも、嘘!
前島 ……!

道野妻2 あなた、あの事も、その事も、なんでも、知っているわよね……
前島 あ……
道野妻1 (マーシヤに近づき) ね、あれも嘘よ
マーシヤ4 え……?
道野妻1 (笑って) その肖像画の男は、世界を救っちゃいけませんから……!
マーシヤ4 え……………
道野妻2 (前島に) ねえ……………?
前島 いえ……! 私、なーんにも知りません、知りませんから……!
道野妻1 (殊更じろじる見て) ……さあ、どうなんだか(疑う)

そのまま少し間。

道野妻2 行きましょう(と、ふるしきを置く)
道野妻1 ……どうだか(疑う)

道野妻1、去って行く。

道野妻2、道野妻1を疑いながら、そのあとを追って、去って行く。

SCENE 「疑」 2」

同時に、下手奥舞台に、道野を抱き上げたまま、佐々木がやって来る。
道野は、暴れて、佐々木から降りる。

道野 どこへ連れて行くんだ……!、私には、やらねばならないことが…
佐々木 うんうん…(かわいいなあと思って、道野を見る)
道野 私は、これから、息子に会いに行くんだ……
佐々木 ……。(うなずきながら、かわいいなあと思って、道野を見ている)
道野 私は、これをあいつに、渡さなくてはならない……

道野、ポケットから、銀紙の包みを出す。
佐々木、かわいいなあと思って道野を見ているだけだが、
親身に話を聞いているようにも見える。

道野 ああ。これは私の、最後のおはぎなんだ…

私はもう、おはぎの作れない身体になってしまった……

……。
だからせめて、この最後の一つは、あいつに食べてもらいたいんだ。

……。
いや、食べてくれるかどうかは分かんがね。

……。
息子とは、以前からもう、随分長いこと会っていない、
いや、会ってくれない、誤解してるんだ……
妻が、私を疑って……、しかし、私は家族を裏切るようなことは、一切……!
……………。

(自嘲気味に笑って) ……わかるだろ? 仕事に夢中になり過ぎたんだよ、
社のこと、社員のこと、そればかり、考えていた……。いつの間にか、家族のことを…
……。(たまらずに、道野の手を取って、握る)

だから……!

…グズズ化ちまちょう

道野 え…？
佐々木 まずは、お弁当箱から
道野 ？
佐々木 (再び道野を抱き上げる) ね
道野 ちよっ…
佐々木 おりよりよりよりよ…

佐々木、道野を抱き上げたまま、また走り去っていく。

この間、中央舞台では、前島が、お茶を片付けている。

しかし、関口1、2、マーシヤ4が、前島を、じっと見つめている。
前島は蟹歩きで、明らかに、こそこそしている。

キヨシ妻は、いつの間にか端っこにレジャーシートを敷いており、
息子と娘におにぎりを食べさせている。

SCENE 『蟹5 3』

蟹歩きのまま、やっと湯呑みを一つ片付け、
蟹歩きのまま、もう一つを片そうと、テーブルに近寄る前島。

その手を、パチンと、叩く関口1。前島、止まる。

関口2が、反対側から前島に近づき、関口たちで、前島を囲む。

関口2 ……何か知ってるのか？

前島 ……。

関口1 平田さんの事とか…。あと、その…。(と、ダニエルの肖像画を見る)
マーシヤ4 何を知ってるの？！

マーシヤ4、前島に駆けよろうとするが、
キヨシ妻が、その腕を取って引き止める。

キヨシ妻 ごめんなさい、濡れティッシュみたいなのありませんか
マーシヤ4 え？

関口2 いったい何を隠してるんだよ…！

キヨシ妻 濡れティッシュです

マーシヤ ちよっ、離して

関口2 濡れティッシュがどうしたんだよ…！

キヨシ妻 もー、ご飯粒がべたべたで

関口1 何がべたべたなんだよ…！

キヨシ妻 それか普通のティッシュでも。濡らしますんで

関口1 何を濡らすってんだよ…！

前島、両手で耳を塞ぐ。

関口2 本当のことを言えよ！(と、椅子を一つ、思い切り蹴り倒す)
マーシヤ4 あの！

マーシヤ4、キヨシ妻を突き飛ばして、前島たちの方に駆け寄る。
関口1は、前島の胸ぐらを掴む。

関口1 平田さんは、どこ行ったんだよ！ お前、平田さんに、何したんだよ！
マーシヤ4 私、この人、知ってるんです！ 前に海岸で！

前島、壊れる。

前島 あー——————
全員 ？！

長めの間。

前島 どなた様ですか？

……は？

はじめまして。小保方です

関口2 ……………え？

前島 あ。私、これからちょっと、あの、細胞と、コレなんです。（と、訳ありしぐさをする）
全員 ……………。

前島 じゃ（と、言うと、やたら低姿勢で、へこへこしながら去って行く）

間。

全員 ……………。

マーシヤ4 ……ダニエルは、英雄よね？

関口1 え？ ……知らないよ

関口2 そんなん、どうでもいいよ……

マーシヤ ……。馬鹿！！

マーシヤ、思い切り床を蹴ると、走り去って行く。

SCENE 『数分』

関口ら、それを見送る。

そして関口1、テーブルの上に3つ並んでいるおはぎの1つを、手に取る。

関口1 社長、グッズ化、もう、されちゃったかな……

関口2 かもな……

関口1 野中や、坂下さんも……

関口2 かもな……

少し間。

関口1 平田さんも、…もうきつと、…帰って来ないよな

……。かもな……

……。

どうする？ これから……

関口1 ……。さあな……

関口1、おはぎを丸ごと、口に入れる。
すると、「ブーン、カシャ」と、音がして、
数字、減る。

「4」↓「3」

関口2、振り返って、数字を見る。

……え

関口1 (咀嚼しながら) ……あ。やっぱりうま。おい、お前も最後に一個…

関口1、そう言って振り返り、数字が目に入る

関口1 (咀嚼しながら) ……え？

関口2 あ、いや。俺も一個、もらうよ…

関口2、おはぎを一つ手に取り、丸ごと口に放り込む。

すると、「ブーン、カシャ」と、音がして、数字、減る。

「3」↓「2」

少し間。

関口1、恐る恐る、振り返って、数字を見る。

少し間。

関口1、視線を戻す。

そして無言のまま、テーブルの上に残された、最後のおはぎを、手に取る。
それを見る、関口2。

そして関口1、無言のまま、おはぎを口に、半分だけ、入れてみる。

すると、「ブーン…、カシャシャシャシャ…」と、数字は、

「2」と「1」の間を、激しく、行ったり来たりする。

※以降、「カシャシャシャシャ…」と、鳴るまま。

関口2 え。………これ?!

関口2、もう一度、数字を見て、もう一度、おはぎを見る。

関口2 え。………これ?!

関口2、もう一度、数字を見て、もう一度、おはぎを見る。

関口2 え。………なんで?!

関口1、半分だけ口に入れていたおはぎを、何故か丸ごと、飲み込む。

関口2 あ……。

「チーン！」と、音がして、数字が減る。

「」

少しの間のと、緊急サイレン音が鳴る。

緊急放送

「只今、数字が、1になりました。只今、数字が、1になりました。何が1になったのかは不明ですが、万一、0になった場合、何が起きるかわかりません。念のため警戒し、安全な場所に避難してください」

関口1、おはぎが喉に詰まったらしく、胸を叩いて苦しむ。

関口2、慌てて、テーブルに残っていたお茶を、関口2に渡す。

関口1、そのお茶を、ぐびぐびと飲む。

緊急放送

「決して慌てず、落ち着いて行動してください。決して慌てず、混乱せず、決して暴動などは……、あ」

スピーカーから、暴動っぽい怒声や音が、聞こえてくる。

キヨシ妻は悲鳴を上げ、息子と娘は泣き出す。

関口2

おい、とりあえず、避難しよう！

関口1

……これ！ お茶じゃない！ これ！ お茶じゃない！

暴動の騒ぎがスピーカーから聞こえ続けるなか、

関口1と2、走り去って行く。

キヨシ妻は、テーブルと椅子数個を下手の隅に運び、

テーブルを横にして、その裏に自分達の居場所を作り、息子と娘を隠し、

自分も、隠れる。

すると、暴動の騒ぎは徐々に、聞こえなくなっていく。

SCENE 『雑や』

マーシャ4が、上手から、こっそりとやって来て、

下手に向かって、言う。

マーシャ4 ……タカアキ、まだ居る？

下手から、スーツ姿で頭に大きなリボンをつけたタカアキが、顔を出す。

タカアキ ああ居るによ。なんか今日は騒々しいにゃ

タカアキ、マーシャが頭にリボンをつけていないのに気づき、頭のリボンを外す。
※以降、マーシャとタカアキ、そのまま一切、近づかずに、会話する。

タカアキ …あれ？ 今日はもう、仕事終わり？
マーシャ4 聞こえなかった…？ 色々…
タカアキ あーごめん。俺、ずーっと、あっちの、奥の方に、居たから。
だから何を言ってるかまでは…（と、数字に気づく）あれ…？ 1（イチ）…？

少し間。

タカアキ え？ なに？ どうしたの？ みんなは？
マーシャ4 もう会社、駄目だ。グッズ化されちゃう…
タカアキ え？ なんで…？
マーシャ4 せっかく、就職出来たのに…
タカアキ ああ…
マーシャ4 せっかく一緒に、就職出来たのにね…
タカアキ あ、でもまあ、俺の存在、すっかり忘れられてるけどね
マーシャ4 ごめん、私のせいで

少し間。

マーシャ4 どうしよう、これから…
タカアキ ……。
マーシャ4 私、靴を送りたいの
タカアキ ああ
マーシャ4 なのにさ…

少し間。

タカアキ ……ねえ。もっと先にしようと思ってただけだよ。この際、いいよね？
マーシャ4 え？
タカアキ 俺たち、出会って間もないけど、でも俺、最初から決めてたんだ…
この街に来て、一人きりで、心細そうにしてたマーシャと出会って、
この先、一生、守っていききたいって…

マーシャ4 え…
タカアキ だからさ、結婚、しようよ
マーシャ4 …。
タカアキ って。ちょっと、唐突過ぎたかな
マーシャ4 ……タカアキ！

マーシャ4、思わず、タカアキに駆け寄る。
するとタカアキ、笑顔のまま後ずさり、
一定距離でマーシャから離れて行き、幕内に入って、居なくなる。

マーシャ4 ……。

はっとする、マーシャ4。

マーシャ4 あっ！ ごめんタカアキ

マーシャ、二、三步、後ろに下がると、
タカアキ、二、三步、幕内から出てくる。

タカアキ だからこれから、俺と一緒にさ
マーシヤ4 気持ち嬉しいけど。でも…
タカアキ あ、別に答えは急がないよ、でもさ、俺、けっこう本気なんだよ
マーシヤ4 でも！

タカアキ、思わず、マーシヤ4に近寄る。
するとマーシヤ4、タカアキから逃げ出す。
マーシヤ4、そのまま、幕内に入り、居なくなる。

タカアキ ……。

はっとする、タカアキ。

タカアキ あっ！ ごめんごめん！

タカアキ、二、三步、後ろに下がると、
マーシヤ4、二、三步、幕内から出てくる。

マーシヤ4 ……ね？ 無理でしょ？

タカアキ うん？

マーシヤ4 結婚なんて、無理でしょ？

タカアキ うん？

マーシヤ4 だって、…治らないんでしょ？

タカアキ うん？

マーシヤ4 アレルギー…

タカアキ うん？

マーシヤ4 だから！ ……私アレルギー

タカアキ ……(考えてから) ああ！ なんだ！ そんなことか！

マーシヤ4 そんなことじゃない！

マーシヤ、タカアキとの距離を指し示す。

マーシヤ4 私たち、これ以上、近づけないんだよ？

近づいたこと、ないんだよ？！

マーシヤ、思わず声を荒げると、

タカアキ、爽やかな笑顔のまま、さも汚いもののように、

口を抑え、マーシヤの方を手で仰ぐ。

タカアキ (仰ぎながら) 俺はそれでもぜんぜん、構わないよ

マーシヤ4 ……。駄目だよ。七十二億人に一人の、奇病だよ？

タカアキ 愛があればそんなこと

少し間。

テーブルの後ろから、キヨシ妻と息子と娘、ちよっただけ顔を覗かす。

マーシヤ4 だって結婚となれば、私、子供も欲しいもん

タカアキ なんとかなるよ

マーシヤ4 どうやって

タカアキ 例えばマーシヤがこうしてそこに寝て…(股を広げて寝転がるジエスチャー)
俺がこっから…、こう！(遠くから射精をするジエスチャー)

キヨシ妻、息子と娘の目を手で覆って、
テーブルの後ろに、再び隠れる。

マーシヤ4 もういっ…！

タカアキ (嬉しそうに) きっとかわいい子が産まれるよ。なんせ、かわいさで就職が決まった、俺たちの子どもん

マーシヤ4 ……。

タカアキ うん、それに、このアレルギーは優性遺伝だから、産まれてくる子もきっと…

マーシヤ4 え……？

タカアキ な？ 幸せな家庭を、築こうよ！

マーシヤ4 え…？ なに…？ 子供も…？ 私アレルギーに…？

タカアキ ああ。きっと、そうだろうなあ…

マーシヤ4 いやよ、そんな子…！

タカアキ マーシヤ！ 産まれてくる子に罪はないよ！

そこで、下手奥に道野がふらふらとやって来て、息を整えると、
野中と坂下が、息を切らせてやって来る。

野中 社長…！

道野 ああ、無事だったか、野中くん、坂下くん

野中 何やってんですか、こんな所で…！

道野 ああ、佐々木から逃れて、あいつに、おはぎを、渡して来たんだ…！

野中 あいつ？

道野 ああ、最後の一個を、しかし、話は出来なかった、何も答えてくれなかった…！

坂下 とにかく、どこかに隠れないと…！

野中 ああ、こんなところうるうろしてたら、また見つかりますから！

そこに関口が、走ってやって来る。

関口 ああ、やっぱり！ 野中！ 坂下さん！

野中 あ、関口、どこかこの辺で、隠れられる場所、知らないか？

関口 え？ あ、社長…！ よかった、無事で…

坂下 どこでもいいの！ とりあえずで…！

関口 いや、そんなことよりあれなんです、あの数字がおはぎなんです！

三人 ……え？

関口 いいからちよっと、来てください！(道野を抱き上げる)

坂下 あっ、ちよっと…

野中 おい…！ 待てよ！

道野を抱き上げた関口、走り去り、

それを追って、野中と坂下も、走り去る。

中央舞台では、マーシヤ4が、うつむいたまま。

マーシヤ4 結婚なんか無理よ

タカアキ 無理じゃないよ

マーシャ4、上手前に向かって歩く。
タカアキ、その後ろに続いて、歩く。

マーシャ4 (急に振り返って) 着いて来ないで！
タカアキ (鼻をつまんで、より汚いもののように、マーシャの方を思い切り手で仰ぐ)
マーシャ4 ……。
タカアキ (しっかりと鼻をつまんだまま、鼻声で) 二人で幸せになるうよ、ね？
マーシャ4 ……。

そこに眼鏡を外し、白衣を羽織り、試験管を持った前島が、
ご機嫌で美しくバレエを踊りながらやって来て、
二人の間を横切り、マーシャ4に会釈をして、去って行く。

マーシャ4 …？
タカアキ …？

マーシャとタカアキの距離が自然と空くと、
突如、音と光りに包まれて、マーシャ3、下手奥に現れる。

マーシャー 私は5分前のマーシャー！

マーシャ4とタカアキ、振り返って、マーシャーを見る。

マーシャー ……。馬鹿！！

そう言うと、マーシャー、思い切り床を蹴って、走り去って行く。

タカアキ え、5分前に、何があった？

マーシャ4 もついや(落ちたままの靴の箱を拾って去るつとす)(

タカアキ ねえ、ほら、靴、送る？ たくさん送る？

マーシャ4 ……。(立ち止まる)

タカアキ 大丈夫だって！ これからだんだん、景気も良くなるし、

そしたらその内、かわいいだけの世の中じゃなくなるし。

だからさ、なんでもいいから、俺、働くよ。

だからマーシャも、好きなことをすればいい。

そうしてさ、靴をさ、何足も買おう、いくらだって買えるよ、買ってやるよ

マーシャ4 ……。

タカアキ ね？

マーシャ4とタカアキ、見つめ合う。
すると美しい音楽と共に、映像が映し出される。

ウエディングドレスのマーシャ4と、タキシードのタカアキが、美しい教会で、
かなり遠く一定距離を保って、幸せそうに微笑む映像。
美しい森でも、美しい草原でも、美しい海辺でも、
かなり遠く一定の距離を取って、幸せそうに微笑む映像。

そして画像、突然ノイズに変わる。

SCENE 『幕中 2』

タカアキ (映像を見て) あ、テレビ…

マーシヤ4 え…?

タカアキ ほら、テレビだよ、やっと放送再開だ

マーシヤ4 (思わずテレビに駆け寄る)

タカアキ ね、すぐにいろいろ復興するから

映像には、美しいバレエ音楽と共に、

美しいプリマの写真が何枚も、映し出される。

マーシヤ4 ……?!

音楽が終わると、スーツ姿の司会者が映る。

司会者

「皆さん、こんにちは。

平和がもたらされて、初めての放送、記念すべきこの放送では、

あの世界的なプリマ、「マーシヤ・アリモワ」さんを、ご紹介します」

昔のままのマーシヤ3の写真が、映し出される。

司会者

「あの混乱の時代に、新星のごとくバレエ界に現れた、マーシヤ・アリモワ。

彼女は、この新時代を祝して、これより大規模なワールド・ツアーをおこないます。

これにより遂に、名実ともに、マーシヤは世界一のプリマになると、

言われています」

画面が切り替わり、

マーシヤ3と、パーヴェルとターニヤが、映し出される。

そこは豪邸。

マーシヤ3

「ありがとうございます…！」

ターニヤ

「この荣誉に、しっかりと、答えていきたいと思っています…！」

父

「ほんとにねえ…、この子が、プリマになるって言うって島を飛び出した時は…、

もう…、ぐうなる事かと……」

母

「ええ……。本当に、自慢の娘ですよ。きっと、色々と辛いこともあったらうに…！」

マーシヤ3

「いいえ私、何があるかと、信念を貫いただけですから…！」

父

「靴もね、ほら、こんなに。もう、何百足も送ってくれてね」

「ああ、家に入りきらなくなって、困ったよ」

豪邸には、大量の高価な靴が、山積みになっている。

マーシヤ、衝動的に靴の箱を投げ捨てる。

タカアキ

マーシヤ…?

マーシヤ3

「ごめんなさい、私ったら、ついうっかり、送りすぎてしまったの。

ターニヤ

「だから慌てて、この新しい家を、プレゼントしたのよ」

父

「ええ、びっくり！ だってお城みたいなのよ！ほんとにゴージャスで…、

もう、まるで夢を見てるみたい……」

マーシャ4、投げ捨てた靴の箱を、思い切り踏み潰す。

マーシャ4 あ——————

間。

タカアキ マーシャ…？

マーシャ4、テレビを消し、タカアキに向き直る。

タカアキ え…？

そして唐突に、全速力で、タカアキに向かって走り出す。

タカアキ あっ…！

タカアキ、逃げようとして転ぶ。

マーシャ4、倒れたタカアキの前で、仁王立ちする。

タカアキ え…、マーシャ…

仁王立ちを続ける、マーシャ4。

苦しみだす、タカアキ。

タカアキ マー…、シャ…、どうして…

そこに、暴動の怒声が再び聞こえてきて、照明が揺れる。

タカアキ、断末魔をあげる。

そして、暴動の怒声が大きくなると、照明、カットアウト。

SCENE 『幸せ 3』

中央舞台、明るくなる。

下手の端には、タカアキが死んでいる。

マーシャは居らず。そのリボンのみが、床に落ちている。

しばらくすると、道野を抱き上げた関口がやって来る。

誰も居ないのを確認すると、振り向いてうなずき、

野中と坂下も、追って入って来る。

関口は、道野を降ろし、数字を指差す。

関口 ほらあの数字、あれがおはぎなんです

道野 1 (イチ) ……。 (と、つぶやくと、思わず数字の元に走り寄る)

関口 どうしてなんですか、どうしておはぎが…

坂下 (タカアキが死んでいるのを見つける) えっ…

野中 (タカアキを見て) あ…

坂下 タカアキくん…！ え、居たの？ 知らなかった、どこに居たの？

タカアキに近づこうとする坂下を、野中、止める。

野中 駄目だ…、死んでるよ……

坂下 えっ……

間。

関口 ん…？ マーシャ？

関口、落ちているリボンを見つける。

野中 (リボンを見て) え……、…マーシャ？

関口 (リボンに向かって言う) え、何があったんだ、どうして埋まってる…？

坂下 (リボンに向かって言う) ね、説明して、マーシャ…

間。

野中 ……何か言ってる？

関口 よく聞こえないな…

坂下 もうちょっと大きく…

三人、リボンに対して、耳を澄ます。

すると素敵な音と共に、下手奥舞台に照明が当たる。

三人が振り返ると、下手奥舞台には、

マーシャ4と全く同じリボンが落ちている。

マーシャ (声のみ) 「私は十年後のマーシャ！」

間。

マーシャ ……。

そのリボンもまた、その先、何も言わない。

一斉に、中央舞台のリボンに向き直る、三人。

野中 (リボンに向かって言う) おいマーシャ、出てこい！

坂下 (リボンに向かって言う) マーシャ、お願い、出てきて！

関口 (リボンに向かって言う) マーシャ！

そこで、唐突に、「チン！」と、数字が減る

「0」

静まる三人。

道野 ミチヒコ……！

三人 ……？ (道野を見る)

道野 ミチヒコ！ミチヒコ！ミチヒコ！ミチヒコ！

興奮して、小躍りする道野。
関口は、下手の端に横倒しになっているテーブルに気づいて、近づいて行く。
小躍りする道野に、恐る恐る近づくと、野中。

野中 え、ちょっと、どうしたんですか…

道野 あいつが…、最後の一個を…

野中 ……え？

道野 最後の一個を…！！

短い間。

道野 ミチヒコ……！！

野中 ……誰ですか？

関口、そのテーブルを、倒してみる。

するとそこには、キヨシの家族ではなく、お侍が一人、が居る。

お侍 ん…？

道野 ミチヒコ………

野中 ……だから誰ですか

お侍 拙者かな？

全員、お侍を見る。

間。

全員とお侍が見つめ合うまま、
空になった銀紙を持ったミツ●ーが、上手から照れ臭そうに現れる。

ミツ●ー 父さん…

しかし再び暴動の怒声が聞こえてくる。更に爆音や悲鳴なども聞こえてくる。
皆、それに気を取られたまま、照明、カットアウト。

FILM 『ENDING』

サイレンが鳴り、数字の「0」が点滅するなか、各国の激しい暴動の様子。
それを制圧する軍隊の行進がやって来る。

おはぎ。大豆。昆布。おはぎ。大豆。昆布。の、繰り返す。

ロシアの海岸。南米の海岸。アラブの海岸。東京湾の海岸。

世界各地の風景の、どこにでも居る、キヨシ。

どこにでも居て、キヨシを探す、キヨシの妻と、その息子と娘。

最後にキャストの名前が順に映り、順に中央舞台にキャストが並び、
揃ったら一礼をして、退場。

映像終わりで、客電、点灯。

『ポリシヨイ・ライフ』

脚本・演出・映像・音響 一十口裏
振付・演出 植木早苗

出演

植木早苗 野中 ターニヤ エル・ニーニョ アハド ダニエル キャスター マリオ 道野妻1 将校 工員1
春原久子 関口 パーヴェル フリオ ピンチュン アミル 乗組員1 軍服の男 工員2 同志3 軍曹 軍人
河野美菜 前島 マーシャ2 フェーン 婆さん 乗組員3
大場靖子 道野
池田玲子 キヨシ マーシャ3 ラ・ニーニャ ミツ●ー 道野妻2 女キャスト2
望月文 平田 サントス キヨシ妻 爺さん 男(浦安) ピンチュン(別人) 同志2
川端さくら ニーナ ジョアンナ 女キャスト1 ハマグリ 女(南米) 娘
久保田琴乃 ハーシム 看守 警察官 男(不審) 女たち(南米) カニ 軍人 息子
山口奈緒 アースラ マーシャ1 ヒート 関口2 配達員 女たち(南米) 男(昆布) 工員3
杉森多恵子 坂下 ソフィア チェンチュー 女(浦安) 子供
三明真実 佐々木 タカアキ ドップラー アイシャ 乗組員2 ヤドカリ 看守長 お侍 工員4 同志3 軍人
鷹羽彩花 マーシャ4 チーリャオ 女たち(南米)

照明 山岡茉友子 / 音響オペ 吉田有花 / 映像オペ 信広天音 / 舞台装置 畠山英樹
協力 株式会社テンカトル 株式会社オフィスチャープ 株式会社アリエス バイ・ザ・ウェイ 乙女装置 畠山工務店
制作 げんこつ団事務所

もしも本作品を、上演、引用などされる場合には、
ご連絡先とご氏名、その内容を明記のうえ、
必ず左記アドレスまで、ご連絡ください。
一部分であっても断わりのないご使用は、禁止させていただきます。

info@genkotu-dan.official.jp

(問) 0369138012 げんこつ団事務所